學　報
Kobe　College　Bulletin

ISSN0389－164X
NO. 1 7 7
2016. 7 . 8
神戸女学院
学報委員会

# 「愛神」について

院　長　森　　孝一

ゴールデンウィークに、いま外国人旅行客に最も人気のある伏見稲荷大社に出かけました。その日、伏見稲荷は春の祭である「稲荷祭」（還幸祭）にあたっており、夕方、何基もの神輿（みこし）が帰ってくるというので、楽しみに待っていました。ところが、全ての神輿は一基ずつトラックに乗せられており、期待外れでガッカリでした。

神輿の担ぎ手がいない。これは人ごとではありません。神戸女学院のキリスト教教育がそうならないように、「他山の石」として自戒しなければならないと思いました。

神戸女学院のキリスト教教育は、キリスト教信者である教職員や学院関係者だけでなく、キリスト教信者ではないけれど、神戸女学院のキリスト教教育に賛同して下さる多くの皆さんによって支えられています。しかし、神戸女学院のキリスト教教育の内実についての反省や検討をおろそかにすると、伏見稲荷の「トラックに載せられた神輿」のように、形は神輿なのだけれど、本来は喜びと熱狂のうちに、「氏子」によって担がれる神輿ではなくなってしまうかもしれません。

神戸女学院は永久標語として、「愛神愛隣」を掲げています。神戸女学院に連なる全ての人が、心から「愛神愛隣」を自分のものとすることが理想です。皆さんはいろいろな機会に、「愛神愛隣」について読んだり聞いたりしてこられたと思います。しかし、私の印象では「愛隣」について語られることは多いけれど、「愛神」については「愛隣」と比べると少ないように思うのですが、いかがでしょう。

その理由は「愛隣」は「思いやり、共感、奉仕」のような倫理的あり方に置き換えることが可能であり、ある程度イメージすることができるのに対して、「愛神」はどのようにイメージしていいのか分からないというところがあるのだと思います。「愛隣」の対象は人だけれども、「愛神」の対象は神であり、そもそも「神」が分からないので、どう愛していいのかも分からないということなのだと思います。

私は神戸女学院に来るまで、同志社大学神学部で教えていました。神学部ですから、まさに「神を学ぶ」ところだと思われるかもしれません。私は神学部で最年長の教員でしたが、入門のクラスを担当していました。実はどの学問領域においても、入門が一番重要なのであり、もっともベテランで力のある教員がそれを担当すべきです。入門のクラスを非常勤講師に任せて、自分は自分の専門を教えるという考えは、教育の何であるかが分かっていないと言うべきでしょう。

神学の入門のクラスで新入生を対象に、私は最初に「神学は神を学ぶと書くが、学べるような神は神ではない。神学は神を信仰する人間を学ぶ人間学だ」から始めました。自分の信仰を深めようとして入学してきた学生には、少しショックであったかもしれません。反対に、学問的に宗教を学ぼうとして

入学した学生には、「我が意を得たり」であったかもしれません。しかし、宗教を学問として学ぼうとする学生も、社会学的に、歴史学的に、対象となる宗教を分析する前に、「宗教とはどのようなものか」「信仰とはどのような世界なのか」について、研究対象に対して「共感的に」関わり、理解しようとすることが大切だと思っています。

信仰という世界は抽象的なものではなく、極めて具体的なものだと思います。言い換えれば、信仰の対象としての神や仏は、抽象的な「普通名詞」ではなく、「固有名詞」としての神や仏です。

旧約聖書の出エジプト記20章１～３節、これは「十戒」の最初の部分ですが、次のように記されています。「私は主、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。」この言葉を聞いたモーセにとって、また後の時代のユダヤ教徒にとって、「私の神」は抽象的なものではなく、「私たちをエジプトの国、奴隷の家から解放してくれた、『あの神』」なのです。

同様に、キリスト教徒にとっては、「私の罪のために、私に代わって十字架に架かってくださった『あの神』」なのであり、イスラーム教徒にとっては、「ムハンマドに啓示（真理）を示し、私に真理を示してくださった『あの神』」なのです。私にとってかけがえのない、「私の神」を実感すること。それが「信仰の世界」であり、「愛神」なのだと思います。

新約聖書の重要な文書を書き記し、キリスト教信仰の基礎を据えた使徒パウロは、「私の神」（キリスト）について、つぎのように述べています。「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストが私の内に生きておられるのです。」（ガラテヤの信徒への手紙２章20節）「私の神」であるキリストと一つになる、あるいは、「私の神」によって抱かれ一つになる。これが「信仰の世界」だと思います。

キリスト教に限らず、さまざまな宗教は、神や仏と「一つになる（合一）」宗教体験について語っています。弘法大師空海は若き日、荒行修行に励んでいたとき、室戸岬近くの太平洋に面した洞窟で、「明けの明星が腹に入った」体験をします。これが空海の悟りのはじまりです。「明けの明星」すなわち「宇宙」と一つになるという体験。この「宇宙体験」が空海にとっての「信仰の世界」となりました。

立花　隆は『宇宙からの帰還』のなかで、NASAの宇宙飛行士たちにインタビューを行い、彼らの「宇宙体験」についてルポしています。かつては空海のような「宗教的天才」にしか体験できなかった「宇宙と一つになる体験（宇宙体験）」を、実際に宇宙空間に飛び出して、漆黒の宇宙の崇高さとそのなかで光り輝く地球を体験することにより、同様の「宇宙体験」を持つことができたのだと立花は記しています。彼らのうちの何人かは、のちにキリスト教の伝道者となりました。

キリスト教では「私の神」であるキリストと一つになることを、教会において儀式化してきました。それが最後の晩餐のときに、キリストがパンとぶどう酒をとり、「これはわたしの体（パン）であり、血（ぶどう酒）である。わたしの記念としてこのように行いなさい」（コリントの信徒への手紙 ― 11章24-25節）と教えた聖餐式です。カトリックでは「聖体拝領」と呼び、ミサの中心をなしています。宗教改革後にできたプロテスタント教会では、聖餐式だけではなく、聖書に基づいた説教も、「私の神」と一つになる手段であると教えています。

私は教会の礼拝の中で、聖餐（パンとぶどう酒）にあずかるとき、「体が震える」ときがあります。パンやぶどう酒はコンビニで買ったものかもしれません。しかし、聖餐制定の言葉の「信仰を持って、心のうちに、キリストを味わいましょう」にあるように、「信仰を持って、心のうちに、キリストを味わう」とき、私にとって、パンは単なるパンではなく、ぶどう酒は単なるぶどう酒ではなく、それは私の罪を担って十字架に架かってくださったイエス・キリストそのものとなり、「私の神」（キリスト）と一つになるという、「私の」宗教体験となるのだと思います。

「信仰の世界」や「宗教体験」は、このように理屈や合理性を越えた「非合理的なもの」です。しかし、「意識」だけでなくて「無意識」があり、無意識が人に大きな影響と力を与えるように、「合理的な世界」だけでなく「非合理な世界」も、人間にとって重要なものだと思います。

「愛神」は「私」が「私の神」を愛する、極めて個人的な世界です。最初の部分で「学べるような神は神ではない」と申しました。キリスト教信者となっても、神を完全に理解することはできませんし、洗礼を受けることが終わりではありません。学び尽くせないことを認識しながら、聖書を学び、教えの言葉に耳を傾けることによって、「私の神」と「私」を知ろうと努力します。この点において、信者であるかないかの違いはなく、「愛神」は継続的なプロセスなのだと思います。

祭りは観客として眺めるよりも、自分で御輿を担ぐ方が楽しいに違いありません。「愛神愛隣」を自分のものとするために、自分にとっての「愛神」を実感できるよう、チャレンジしてみませんか。

## KCCだより

コーベ・カレッジ・コーポレーション（Kobe College Corporation）は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のために設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体（NPO）です。以来、日米両国の学生生徒ならびに教員のために、さまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援を行い、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCC はその活動範囲を拡大するために、名前の後に“Japan Education Exchange”という副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。今回、執筆をしてくださったのは、現在ニュージャージー州にお住まいで、KCC-JEE の理事をおつとめくださっている水野多美さんです。2016年４月からは学院の評議員にもご就任いただいています。

### 神戸女学院大学スキー部を卒業してから36年

KCC-JEE 理事
学校法人神戸女学院評議員
水野　多美

現在、アメリカ・ニュージャージー州で会社員として在住している水野多美です。

神戸女学院大学で４年間の楽しい大学生活を過ごしました。一生懸命に通っていたのは、スキー部の部室。大学生活を思えば、スキー部でのいろいろな出来事を一番印象深く思い出します。スキー部を卒業してから36年。伝統有るスキー部も現在は、現役学生のいない状態ですが、数年前に大阪で開催された OG 会50周年記念の会にも参加することができ、顧問だった内藤先生にお会いすることができました。昨年は、学院創立140周年記念式典にも参列させていただき、良い学校を卒業できたものだと心から思いました。

KCC-JEE のボードメンバーとして、活動させていただいております。めぐみ会ニューヨーク支部長から KC 卒業生として、KCC-JEE をお手伝いするようにとご助言いただき、2014年９月から KCC-JEE の役員として、ご一緒させていただいております。年に２回のシカゴでのミーティング、数回の電話会議など、まだまだ判らないことが満載ですが、母校の為に何かできることを！とその一念で、何とかやっております。日系企業の駐在員としてニュージャージー州に在住しており、16年目となりました。今年４月から職場の上司も変わり、職場環境も変わり、仕事も忙しい毎日です。

先日は、６月開催予定の NY 支部同窓会の案内状作成で集まろう、とわが家で作業を行ないました。ワイワイ言いながらの案内状作り、100通強の封筒詰めはあっと言う間に終わり、遅い昼食を取り、それぞれの近況報告を行い、と楽しいひと時でした。

誰もが忙しい生活を送っているメンバーですので、集まれる人が集まり、会長が気さくに面倒みてくださるという、温かいグループです。年に１回、恒例の同窓会も NY にて集まっています。例年の参加者数は10数名の小さな会ですが、NY に来て１カ月も経たない方、40年以上お住まいの方、など、アッと言う間に NY でのお友達として、繋がります。

仕事、ご主人の転勤など、NY エリアに滞在される方は卒業生の中でもたくさんいらっしゃることと思います。同窓会なんて、何年も行っていないし…毎日の生活で忙しくて…とお思いの方も多いと思いますが、こんな集まりがあったのか、こんなひと時もありだな！と思っていただけることと思います。伝統ある学校だからこそ、多くのいろいろな先輩が居て、学校の輪が繋がっていることを感じていただきたいと思います。

このように学校が美しい校舎を持ち、伝統を続けていく陰には、KCC-JEE があります。岡田山の学舎建設の際の寄付、現在では、大学の客員教員や中高部英語教員の推薦など、神戸女学院を支えていく一端が、アメリカ・シカゴ郊外に在ることを皆様にも私と同じように認識していただければ、光栄です。

## 愛校バザー報告

愛校バザー開催の５月28日（土）は、降水確率０％の予報でしたが、曇天が続き昼前からは時折弱い雨が降る空模様となりました。このような天候にも関わらず、朝から多くの来場者を迎え、開会礼拝に続く森院長による開会宣言の頃には、体育館前はすでに例年以上の長蛇の列ができ、盛況の１日を予感させました。

今年もグラウンドの大テントや２つの体育館を中心に、めぐみ会、中高部 P.T.A.、生徒、学生、教職員による80以上の売店が整然と設営されました。ご協力いただいた奉仕者のたくさんの笑顔が、お客さまの購買意欲を一層促進していました。弱い雨なら十分凌げた藤棚や、サロンコンサートが花を添えためぐみ会館でも、終日明るくまた懐かしい親睦の輪が広がり、どなたも神戸女学院に連なる特別の１日を喜んでおられる様子でした。

報告によると、今年はマザーズルームのご利用者が多かったとのことで、乳幼児同伴のご家族連れにも安心してご来場いただけるバザーになりました。

閉会礼拝が終わる頃には小雨も止み、関係者それぞれ爽やかな汗を感じながら、今年も無事愛校バザーを開催できた喜びを分かちあいました。

最後になりましたが、ご来場くださいました皆様、周到な準備のうちにご奉仕くださいましためぐみ会ならびに中高部 P.T.A. の皆様、協力いただいた生徒、学生、教職員の皆様に深く感謝申し上げます。

（愛校バザー実行委員長）

**愛校バザー風景**

## 新任のことば

個人情報保護のため、
４ページ目右段から
９ページ目は
削除しています。

## 人　　事

個人情報保護のため、一部削除しています。

## 学内人事

## 神戸女学院教育振興会寄付金

神戸女学院の教育振興会募金事業のために、ご厚志ならびにご支援を賜り深く感謝の意を表します。2015年度のご寄付実績を下記の通りご報告申し上げます。

●現金によるご寄付

| | | |
|---|---|---|
| 同窓生 | 678件 | 12,819,400円 |
| 在学生 | 1件 | 7,702円 |
| 保護者（大学・中高） | 206件 | 19,075,000円 |
| 学外役員・評議員等 | 28件 | 1,540,000円 |
| 教職員・旧教職員等 | 63件 | 4,282,000円 |
| めぐみ会・団体・法人等 | 41件 | 8,497,132円 |
| 合　計 | 1,017件 | 46,221,234円 |

※複数の区分に該当される方の場合には、事務処理上妥当と思われる区分を選択しております。

●古本募金　307冊　12,934円

昨年12月18日より、古本募金を開始しました。読み終えた本などで気軽にご参加いただけます。

## 慶　弔

個人情報保護のため、一部削除しています。

## 栄　誉

# 神戸女学院2015年度決算報告及び2016年度事業計画

2015年度に実施した事業の内容及び2016年度事業計画の詳細は、『2015年度事業報告書』に記載しております。以下の本学院ホームページをご覧ください。
http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html
また、当該ホームページ上では、決算書も公開しておりますので、併せてご参照下さい。

## Ⅰ．2015年度神戸女学院決算報告

### 1．事業活動収支計算書

事業活動収支をみると、事業活動収入計は50億33百万円、事業活動支出計は47億43百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は２億90百万円となりました。当該収支差額は、教育活動収支差額１億34百万円、教育活動外収支差額93百万円、特別収支差額63百万円によって構成されています。

（金額は単位未満を切捨表示しているため、内訳を加減算したものと合計額・差引額は一致しません。2014年度の数値は新会計基準ベースに組み替えて表示しています。以下同じ。）

まず、教育活動収入（48億63百万円、前年度比△２億56百万円）をみると、学生生徒等納付金（40億１百万円）は大学入学金減額等により前年度比△92百万円、寄付金（66百万円）も卒業生の遺贈（１億44百万円）という前年度の特殊要因が剥落し、前年度比△１億20百万円となりました。経常費等補助金（４億82百万円）については、私立大学等経常費補助金の特別補助において、私立大学等改革総合支援事業「タイプ１」の不採択等により△17百万円となったものの、一般補助については、定員適正化等により10百万円の増加となり、中高部の兵庫県経常費補助金増加（＋５百万円）も寄与した結果、前年度並みとなりました。付随事業収入（47百万円、前年度比△40百万円）は、学生寮のチェスト・椅子の入替（20百万円）や電気使用量集中検針システム更新工事（６百万円）等により環境整備を図った結果、補助活動事業収入が前年度比△42百万円となったことが主な減少要因です。

一方、教育活動支出（47億29百万円、前年度比△１億78百万円）をみると、管理経費は広報活動の強化やマイナンバー制度対応等によるコスト増（＋18百万円）となりましたが、人件費は前年度比△86百万円、教育研究経費は前年度比△１億10百万円と、大幅に減少しています。人件費の減少要因は、前年度が選択定年を含む定年退職者が多かったことにより例年より退職関連費用が増加していたこと、当該退職等に伴う人員構成の変化があります。教育研究経費は、過年度の設備投資による減価償却費増（＋18百万円）や給付型奨学金制度の充実による奨学費増（＋16百万円）の一方、前年度のヴァージニア・クラークソン記念館新築工事等の大規模工事に伴う工事費用が減少し、総額では経費減となっています。

上記のとおり、収支がともに減少した結果、教育活動収支差額は１億34百万円（前年度比△77百万円）となりました。

次に、教育活動外収支をみると、低金利の金融市場にあるものの、金銭信託を中心とした運用が順調に進み、安定収益を確保した結果、受取利息・配当金は95百万円（前年度比＋27百万円）となりました。一方、借入金の約定返済により借入金利息も減少（△0.9百万円）し、教育活動外収支差額は93百万円（前年度比＋28百万円）となりました。

さらに、特別収支は、施設設備補助金については無線LAN化等の補助金（８百万円）等を計上するものの減収となっていますが、特定資産の中で運用していた地方債等の売却益（34百万円）等により、資産売却差額は35百万円増加、一方、資産処分差額はほぼ前年度並みの11百万円となり、特別収支差額は63百万円（前年度比＋15百万円）となりました。

これらの３活動により確保した基本金組入前当年度収支差額２億90百万円から、文学部２号館トイレ改修工事による建物増加（20百万円）や建築資金の借入金返済（55百万円）による第１号基本金組入（２億30百万円）、第３号基本金組入（１億40百万円）を行った結果、当年度収支差額は△79百万円と前年度並みにおさまり、翌年度繰越収支差額は、これに前年度繰越収支差額△10億16百万円を加えた△10億95百万円となりました。

### 2．資金収支計算書

資金収支は、事業活動収支と同様、入学金減額や前年度の大口寄付の特殊要因剥離の影響で収入減の傾向にありましたが、本年度は前年度ほどの大型工

**事業活動収支計算書** （単位：百万円）

| | | 科目 | 本年度予算 | 本年度決算(A) | 前年度決算(B) | 増減(A)−(B) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 4,001 | 4,001 | 4,093 | △ 92 |
| | | 手数料 | 89 | 94 | 94 | 0 |
| | | 寄付金 | 60 | 66 | 186 | △ 120 |
| | | 経常費等補助金 | 443 | 482 | 481 | 0 |
| | | 付随事業収入 | 47 | 47 | 87 | △ 40 |
| | | 雑収入 | 167 | 171 | 175 | △ 4 |
| | | 教育活動収入計 | 4,808 | 4,863 | 5,119 | △ 256 |
| | 事業活動支出の部 | 人件費 | 3,034 | 3,035 | 3,122 | △ 86 |
| | | 教育研究経費 | 1,407 | 1,318 | 1,428 | △ 110 |
| | | 管理経費 | 401 | 374 | 355 | 18 |
| | | 徴収不能額等 | — | 1 | 0 | 0 |
| | | 教育活動支出計 | 4,842 | 4,729 | 4,907 | △ 178 |
| | | **教育活動収支差額** | **△ 33** | **134** | **212** | **△ 77** |
| 教育活動外収支 | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金 | 92 | 95 | 67 | 27 |
| | | 教育活動外収入計 | 92 | 95 | 67 | 27 |
| | 事業活動支出の部 | 借入金等利息 | 2 | 2 | 3 | △ 0 |
| | | 教育活動外支出計 | 2 | 2 | 3 | △ 0 |
| | | **教育活動外収支差額** | **89** | **93** | **64** | **28** |
| | | **経常収支差額** | **56** | **227** | **276** | **△ 49** |
| 特別収支 | 事業活動収入の部 | 資産売却差額 | 14 | 35 | 0 | 35 |
| | | その他の特別収入 | 39 | 39 | 58 | △ 19 |
| | | 特別収入計 | 53 | 74 | 58 | 16 |
| | 事業活動支出の部 | 資産処分差額 | 10 | 11 | 11 | 0 |
| | | 特別支出計 | 10 | 11 | 11 | 0 |
| | | **特別収支差額** | **43** | **63** | **47** | **15** |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | | 100 | 290 | 323 | △ 33 |
| 基本金組入額合計 | | | △ 389 | △ 370 | △ 403 | 33 |
| 当年度収支差額 | | | △ 288 | △ 79 | △ 80 | 0 |
| 前年度繰越収支差額 | | | △1,016 | △1,016 | △ 977 | △ 38 |
| 基本金取崩額 | | | — | — | 41 | △ 41 |
| 翌年度繰越収支差額 | | | △1,304 | △1,095 | △1,016 | △ 79 |
| （参考） | | | | | | |
| 事業活動収入計 | | | 4,954 | 5,033 | 5,246 | △ 212 |
| 事業活動支出計 | | | 4,854 | 4,743 | 4,922 | △ 179 |

**資金収支計算書** （単位：百万円）

**収入の部**

| 科目 | 本年度予算 | 本年度決算(A) | 前年度決算(B) | 増減(A)−(B) |
|---|---|---|---|---|
| 学生生徒等納付金収入 | 4,001 | 4,001 | 4,093 | △ 92 |
| 手数料収入 | 89 | 94 | 94 | 0 |
| 寄付金収入 | 84 | 90 | 210 | △ 120 |
| 補助金収入 | 457 | 496 | 515 | △ 18 |
| 資産売却収入 | 14 | 35 | 0 | 35 |
| 付随事業・収益事業収入 | 47 | 47 | 87 | △ 40 |
| 受取利息・配当金収入 | 92 | 95 | 67 | 27 |
| 雑収入 | 167 | 171 | 175 | △ 4 |
| 借入金等収入 | — | — | 236 | △ 236 |
| 前受金収入 | 691 | 724 | 710 | 13 |
| その他の収入 | 208 | 212 | 272 | △ 60 |
| 資金収入調整勘定 | △ 847 | △ 858 | △ 968 | 109 |
| 前年度繰越支払資金 | 2,659 | 2,659 | 2,617 | 42 |
| 収入の部合計 | 7,664 | 7,769 | 8,112 | △ 343 |

**支出の部**

| 科目 | 本年度予算 | 本年度決算(A) | 前年度決算(B) | 増減(A)−(B) |
|---|---|---|---|---|
| 人件費支出 | 3,054 | 3,054 | 3,093 | △ 38 |
| 教育研究経費支出 | 1,100 | 1,011 | 1,128 | △ 116 |
| 管理経費支出 | 368 | 341 | 324 | 16 |
| 借入金等利息支出 | 2 | 2 | 3 | △ 0 |
| 借入金等返済支出 | 115 | 115 | 102 | 13 |
| 施設関係支出 | 161 | 161 | 279 | △ 117 |
| 設備関係支出 | 111 | 97 | 139 | △ 42 |
| 資産運用支出 | 144 | 164 | 331 | △ 167 |
| その他の支出 | 202 | 175 | 197 | △ 22 |
| 資金支出調整勘定 | △ 114 | △ 106 | △ 146 | 39 |
| 翌年度繰越支払資金 | 2,520 | 2,753 | 2,659 | 93 |
| 支出の部合計 | 7,664 | 7,769 | 8,112 | △ 343 |

事はなく施設設備関係の支出も減少し、収支バランスが安定していたこと、また市場の動向にあわせた債券等の売却に伴う財務収入も寄与し、翌年度繰越支払資金は27億53百万円（前年度比＋93百万円）となりました。

3．貸借対照表

（1）資産の部

【固定資産】156億59百万円（＋32百万円）

有形固定資産については、防災倉庫設置のための隣接地購入により土地が増加（＋18百万円）しました。また、トイレ等の改修工事（第二体育館、理学館、文学部２号館、岡田山ロッジ他）によりアメニティの向上を図るとともに、文学部２号館45室の机椅子入替や無線 LAN 環境の拡大（社交館等）、テレビ会議システムの導入等、教育環境の充実にも力を入れました。しかし、本年度の資産取得額を上回る減価償却費の計上により、有形固定資産は前年度比△77百万円の減少となりました。

特定資産については、銀行預金、金銭信託、地方債等で運用しています。第３号基本金の計画的組入（2016年度まで毎年１億円組入れ）、教育振興会等による寄付金収入の第３号基本金や岡田山建築保存引当特定資産への組入れにより、特定資産は１億44百万円増加しました。

その他の固定資産については、減価償却費の計上によるソフトウェアの減少（△13百万円）や、繰上返済等による貸与奨学金残高の減少（△21百万円）により、前年度比△34百万円の減少となりました。

【流動資産】29億18百万円（＋１億１百万円）

未収入金は、主に退職金財団からの交付金や補助金の未収入金で構成されていますが、著変動なく、資金収支計算書の記述のとおり現金預金が増加した

結果、流動資産も増加しました。

（２）負債の部

【固定負債】17億23百万円（△１億33百万円）

借入金は全て私立学校振興・共済事業団からの借入金であり、約定返済による短期への振替により長期借入金が減少（△１億15百万円）しています。割賦購入による長期未払金は著変動ありません。退職給与引当金は長期勤続者の定年退職等により期末要支給額が減少したため減少（△19百万円）しています。

【流動負債】10億29百万円（△23百万円）

2016年度入学者の増加により学費等の前受金が増加（＋13百万円）したものの、設備関係等の未払金が減少（△38百万円）した結果、流動負債減となりました。

（３）純資産の部

【基本金】169億20百万円（＋３億70百万円）

第１号基本金は、教育の充実向上のために取得した固定資産の価額を組み入れたものです。本年度は、文学部２号館トイレ改修工事等の固定資産取得に伴い２億30百万円増加しました。第３号基本金は、奨学金等の教育研究活動に対して基金の運用果実をもって運営するためのものです。奨学基金への計画的組入１億円及び教育振興会等の寄付金の組入れで１億40百万円増加しました。

【繰越収支差額】△10億95百万円（△79百万円）

事業活動収支計算書の当年度収支差額の累計額が計上されており、長期的な収支バランスを表しています。

Ⅱ．2016年度神戸女学院事業計画

１．今後の運営方針及び2016年度事業計画

神戸女学院は1875年に創立され、その10年後にカレッジ部門である高等科を設置して以来、一貫して、日本におけるキリスト教主義学校、女子大学、リベラルアーツ・カレッジのモデルとして先駆的役割を果たしてきました。また、1933年に完成した現在のキャンパスは、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計による美しい校舎群（2014年９月18日、国の重要文化財に指定）と岡田山の豊かな自然が調和し、まさに「学舎が学生を教育する」（ヴォーリズ）理想的な環境を提供しています。

**貸借対照表**　（単位：百万円）

**資産の部**

| 科目 | 本年度末 (A) | 前年度末 (B) | 増減 (A)－(B) |
|---|---|---|---|
| 固定資産 | 15,659 | 15,627 | 32 |
| 有形固定資産 | 8,828 | 8,905 | △ 77 |
| 土地 | 1,341 | 1,323 | 18 |
| 建物 | 4,474 | 4,556 | △ 81 |
| 構築物 | 543 | 556 | △ 13 |
| 教育研究用機器備品 | 443 | 463 | △ 19 |
| 管理用機器備品 | 18 | 20 | △ 2 |
| 図書 | 2,005 | 1,984 | 20 |
| 車両 | 0 | 0 | △ 0 |
| 特定資産 | 6,121 | 5,976 | 144 |
| 第３号基本金引当特定資産 | 1,392 | 1,251 | 140 |
| 退職給与引当特定資産 | 1,465 | 1,484 | △ 19 |
| 減価償却引当特定資産 | 3,136 | 3,136 | 0 |
| 岡田山建築保存引当特定資産 | 127 | 103 | 24 |
| その他の固定資産 | 710 | 744 | △ 34 |
| 電話加入権 | 3 | 3 | 0 |
| ソフトウェア | 35 | 49 | △ 13 |
| 有価証券 | 406 | 406 | 0 |
| 差入保証金 | 3 | 3 | 0 |
| 出資金 | 20 | 20 | 0 |
| 貸与奨学金 | 239 | 260 | △ 21 |
| その他 | 0 | 0 | 0 |
| 流動資産 | 2,918 | 2,816 | 101 |
| 現金預金 | 2,735 | 2,642 | 92 |
| 修学旅行費預り資産 | 17 | 16 | 0 |
| 未収入金 | 148 | 146 | 1 |
| 前払金 | 16 | 9 | 6 |
| 資産の部合計 | 18,577 | 18,443 | 134 |

**負債の部**

| 科目 | 本年度末 (A) | 前年度末 (B) | 増減 (A)－(B) |
|---|---|---|---|
| 固定負債 | 1,723 | 1,856 | △ 133 |
| 長期借入金 | 251 | 366 | △ 115 |
| 長期未払金 | 6 | 5 | 1 |
| 退職給与引当金 | 1,465 | 1,484 | △ 19 |
| 流動負債 | 1,029 | 1,052 | △ 23 |
| 短期借入金 | 115 | 115 | △ 0 |
| 未払金 | 98 | 137 | △ 38 |
| 前受金 | 724 | 710 | 13 |
| 預り金 | 74 | 73 | 0 |
| 修学旅行費預り金 | 17 | 16 | 0 |
| 負債の部合計 | 2,752 | 2,909 | △ 156 |

**純資産の部**

| 科目 | 本年度末 (A) | 前年度末 (B) | 増減 (A)－(B) |
|---|---|---|---|
| 基本金 | 16,920 | 16,550 | 370 |
| 第１号基本金 | 15,155 | 14,925 | 230 |
| 第３号基本金 | 1,392 | 1,251 | 140 |
| 第４号基本金 | 373 | 373 | 0 |
| 繰越収支差額 | △1,095 | △1,016 | △ 79 |
| 翌年度繰越収支差額 | △1,095 | △1,016 | △ 79 |
| 純資産の部合計 | 15,824 | 15,534 | 290 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 負債及び純資産の部合計 | 18,577 | 18,443 | 134 |

大学入学対象者の18才人口は、2018年から再び減少傾向となり、現在の約120万人が2031年には約100万人になると見込まれるなど、大学を取り巻く環境は今後一層厳しくなることが予想されます。この2018年度問題を乗り越えるために、神戸女学院は、変わらぬ理念のもと、「豊かな人間性と国際感覚を育む、日本を代表するキリスト教主義リベラルアーツ女子大学」という本来の特質を明確にして、他大学と差異化し、質の高いリベラルアーツ教育を提供する大学となるよう、教学改革、広報、環境整備など全学的かつ総合的な改善に取り組んで参ります。

中高部においては、厳しい環境下にあっても、現状、入学者確保等において順調に推移しております。近年、施設設備の拡充を行ってきましたが、今後も、教学、学習環境、広報において更なる充実を図って参ります。

2016年度に実施される事業計画の策定にあたり、以下の重点課題を定めました。

**【リベラルアーツ教育の更なる充実】**
リベラルアーツ教育の意義について共有し深化させる取り組みを推進する。
**【学習環境の向上と充実】**
学生、生徒の学習環境向上と重要文化財の保存活用を推進する。
**【学生、生徒サービスの向上】**
学生、生徒の満足度向上に寄与する取り組みを推進する。
**【広報力の整備、強化】**
学院の優れた教育理念、教育内容、教育環境について共有し、社会の認知を促進する体制を強化する。

2016年度予算編成にあたっては、これらを踏まえた施策・全学的取組を優先し採択しました。主な取組は以下の通りです。

**【リベラルアーツ教育の更なる充実】**

・大学の2018年度問題検討 WG で策定された、リベラルアーツ教育の更なる充実をめざす新カリキュラムが2017年度に始動します。これに対応すべく、教務システムを改修します。
・共通英語教育センターの English Honors Program の更なる充実のため、スタンフォード大学教員指導による米国研修プログラムを実施します。
・ポーランドにおける移民・難民問題をテーマとして、ポーランド海外フィールドスタディを実施します。
・通訳、翻訳を専攻する学生と音楽学部など他分野を専攻する他学部の学生が連携した分野横断型招聘 OJT プログラムを実施します。
・『「美容式」® アミノ酸ゼリー』は、商品開発に関わった学生をふくめ、メディアにも多く取り上げられ神戸女学院大学の認知度向上につながりました。今後は、コーヒーや和菓子など異なる味や形状を変えた開発および商品企画を展開し、産学連携と学生の参画、大学ブランド商品イベントへの参加等を通じて本学ブランド力の向上に貢献します。

**【学習環境の向上と充実】**

・大学内ネットワークシステム、MM 教室や CS 教室などパソコン教室の授業支援システム、教職員および学生用のメールシステムの更改など IT リプレースを実施します。利用者の利便性向上とセキュリティ対策強化を図り、安定運用可能なネットワークを構築します。
・学内 LAN 無線化計画を推進します。2014年度より実施してきましたが、今年度、音楽館、音楽2号館、エミリー・ブラウン記念館、ジュリア・ダッドレー記念館に無線 LAN を敷設、これにより、大学の全施設で無線 LAN が導入されることになります。教室、演習室、実験室、ラウンジ等、学生が授業中および授業時間外で活動する場所において、無線（Wi-Fi）を介して学内 LAN やインターネットに接続できる環境を整備し、学生の自主的学修を支援し、先進的な授業形態の実現に寄与します。
・スマートフォンを活用できる、新しい英語の自学自習（e-learning）システムを導入します。発音、音声評定分析機能により TOEIC スコアの向上と総合的英語4技能の強化が期待できます。
・メアリー・アンナ・ホルブルック記念館 H103 実験室にドラフト（局所排気装置）を設置することにより、環境科学系の化学実験の実施が可能とな

り、環境物質の処理を伴う市民、高校生等へのプログラムも実施できます。

・理学館屋上ベランダの整備を実施します。現在の温室を撤去し軽量の温室を設置、ミツバチ飼育観察用のプレハブ施設を設置し、見学に適した環境に整備します。屋上見学を理学館体験やオープンキャンパスで実施することにより、広報強化につながります。ハチミツ生産が安定し、ハチミツ販売やアミノ酸ゼリーへの安定供給が可能となり、本学ブランド力の向上につながります。

・中高部の理科観察用顕微鏡を入れ替えます。現在使用しているものは、38年前に購入したもので、精度や操作性に優れた最新式の顕微鏡を揃えます。

・照度が基準値以下の中高部１号館の教室において、黒板灯の整備等を実施します。

**【学生、生徒サービスの向上】**

・聴覚障がい者支援システムを導入します。

・学生寮舎監室の増設、学生寮シャワーユニット取替え、ジュリア・ダッドレー記念館と図書館新館の洋式トイレへの取替え、デフォレスト記念館ロッカー室空調の取替え、講堂シートクッションの取替え、新社交館２階食堂およびローズルームのイス、テーブル等の更新など、キャンパスアメニティの向上を図ります。

・「就職率向上のための支援講座」、「フロントランナー育成のための特別講座」、「早期離職抑制のためのキャリア支援」を実施し、引き続きキャリア教育およびキャリア支援活動の充実を図ります。

**【広報力の整備、強化】**

・大学ブランディング戦略（調査、戦略策定、ホームページ、広報物の企画、デザイン等）を専門家を活用し策定します。

・K-CLIP（学生生活支援センターおよび国際交流センター）、大学公式サイト、入試サイト、英文学科、人間科学部の各ホームページについてセキュリティ対策およびデザイン刷新、スマートフォン等に対応した機能向上をめざし、リニューアルします。（大学ブランディング戦略と平仄を合わせ実施します。）

**【その他管理】**

・鍵管理システムを構築し、キャンパスセキュリティ強化を図ります。全学的プロジェクトにより推進します。

・重要文化財保護の観点から、法の基準にもとづき、総務館・講堂および図書館、渡り廊下に自動火災報知機を設置します。

・設置後30年経過したタルカット記念館研究室の空調機と照明器具、設置後20年経過したアンジー・クルー記念館の空調熱源機器取替えおよび外壁塗装を実施します。

２．2016年度予算書

2016年度事業活動収支予算書の概要は以下のとおりです。

**事業活動収支予算書**　（単位：百万円）

| | | 科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 学生生徒等納付金 | 3,984 |
| | | 手数料 | 89 |
| | | 寄付金 | 47 |
| | | 経常費等補助金 | 439 |
| | | 付随事業収入 | 80 |
| | | 雑収入 | 62 |
| | | 教育活動収入計 | 4,702 |
| | 事業活動支出の部 | 人件費 | 2,990 |
| | | 教育研究経費 | 1,835 |
| | | 管理経費 | 444 |
| | | 教育活動支出計 | 5,269 |
| | | **教育活動収支差額** | **△ 566** |
| 教育活動外収支 | 事業活動収入の部 | 受取利息・配当金 | 62 |
| | | 教育活動外収入計 | 62 |
| | 事業活動支出の部 | 借入金等利息 | 1 |
| | | 教育活動外支出計 | 1 |
| | | **教育活動外収支差額** | **60** |
| | | **経常収支差額** | **△ 505** |
| 特別収支 | 事業活動収入の部 | その他の特別収入 | 24 |
| | | 特別収入計 | 24 |
| | 事業活動支出の部 | 資産処分差額 | 24 |
| | | 特別支出計 | 24 |
| | | **特別収支差額** | **0** |
| 基本金組入前当年度収支差額 | | | △ 505 |
| 基本金組入額合計 | | | △ 502 |
| 当年度収支差額 | | | △1,007 |

（参考）

| | |
|---|---|
| 事業活動収入計 | 4,789 |
| 事業活動支出計 | 5,294 |

史料室の窓(40)

# 年間標語

## ― 40周年を飾った聖句 ―

神戸女学院史料室　佐伯　裕加恵

神戸女学院には「愛神愛隣」という学院の永久標語がありますが、これのほかにもう一つ標語があります。年間標語といわれるもので、1889年に始まりました。

「毎年聖書中より一つの標語を定め、教師学生並に卒業生がみな力を一つにして一年間それを守つてゆくといふやうな習慣が始つた。〔略〕標語を見れば、学校がどういふ所を志して歩んでゐるかといふ事がよく解る。」(『創立五十年神戸女学院史』pp. 72-73)

今から100年前の創立40周年を祝った年(1916年)には2つの年間標語が同窓会誌『めぐみ』に発表されました。1916年度の標語(1916年2月発行第61号)と1917年度の標語(1916年12月発行第63号)です。

1916年度の標語は“Looking unto Jesus”(イエスを見つめながら)、ヘブライ人への手紙第12章2節からとられています。選んだのは第5代院長に就任したばかりのデフォレスト先生です。この標語について先生は次のように言っています。これは1900年の年間標語であり、その時私たちは25周年を祝った。今、私たちは40周年の最後の年に当たって歴史を振り返っている。あの時と同じ思いで導きを得るためにこれ程ふさわしいものはない、と。そしてこう締めくくっています。

“May this motto help us each this year in every time of trouble or of joy, of work or rest, of suffering or sacrifice, to be ‘strong in the Lord and in the strength of His might.’”

そして1917年度の標語は“Seek Ye First the Kingdom of God”(何よりもまず神の国を求めなさい)、マタイによる福音書第6章33節から。こちらを選んだのは第4代院長ソール先生(院長職をデフォレスト先生に譲って、当時は名誉院長でした)です。このセンテンスには4つの強調された言葉がある、と先生は言います。Seek, First, Kingdom, God。Seekは日本語でも英語でも努力を要する行為である。ただ坐って何もしないで待っていたのでは神の国は来ない。私達の心にそれがもたらされるよう働かなければならない。First、神を生活の隅に押しやらないで、神と神の業を最初に中心にしよう。Kingdom、これは私たち個人と神との関係だけではない。自分たちの生活の場で神の王国を作り上げるために働こう。God、御国のお父様。いつも神の愛の働きを思うとき、神が私達の生活と努力の中心にあることがわかる、と。

学院永久標語

創立40周年を祝った年の最初と最後に選ばれた聖句は連動しているように見えます。世界は戦争の真っただ中にありました。デフォレスト先生の結びの言葉はコヘレトの言葉第3章2節から8節を想起させます。苦難の時、喜びの時、働く時、休む時、耐え忍ぶ時、犠牲を払う時、神と神の力の力強さにあって強くありますように―「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」(コヘレトの言葉第3章1節)

40周年の祝会で一つのペイジェントが演じられました。その中でKobe College Spiritが象徴的に示されました。神戸女学院が求めているものは何か―それは奉仕の精神である。それは一見目立たず、あまりにも陰気に見えるかもしれないが、その内に秘められた輝かしいものを私たちは求めてきたのだ、「イエスを見つめながら」「何よりもまず神の国を求める」そんな歩みを続けてきたのだと、誇らしげに語っています。

140年を迎え、ここでもう一度歴史を振り返ってみると、何が見えるでしょうか。

“May each one of us so seek and find that our lives during the coming year shall be blessed and be a blessing to every other life they touch.”(『めぐみ』第63号 p. 1)

＜キャンパスお気に入りの場所＞

## 国際交流の起点

デフォレスト記念館の西側から階段を下って、文学部１・２号館横のトンネルのような廊下をくぐり抜けると、正面に南欧風のあざやかなエミリー・ブラウン記念館と右側にめじラウンジの回廊に囲まれた開放的な空間が目の前に広がります。お天気が良い日には、そこへたどり着くまでの通路の少し暗さもあり、一層明るさが際立ち、眩しい日差しがエミリー・ブラウン記念館の建物とそのスペースに敷かれた緑の芝生に映えます。

国際交流センターにとってここは、晴れの日には、海外からの留学生や短期研修生の歓迎会イベントがめじラウンジで催された後に、全員で揃って記念撮影を行う場所であり、学生たちが留学生と出会い、英語で話しかけ、談笑するところ、そしてガイドとしてご案内するキャンパスツアーの終着地点でもあります。

またそこでは、歓迎会に参加したボランティアでホームステイを受け入れていただいている地域のご家族が、海外研修生と対面し、触れ合い、楽しむ様子や、子供たちが芝生の上で、左手に広がる音楽館の屋根と景色を眺めながら元気に走り回る姿がありました。

エミリー・ブラウン記念館とめじラウンジへと繋がるその小さなスペースは、このように学生や様々な人たちと海外からの留学生の交流のきっかけとなる、いわば国際交流の起点のようなところとなっています。

（国際交流センター）

交流の起点となる広場にて

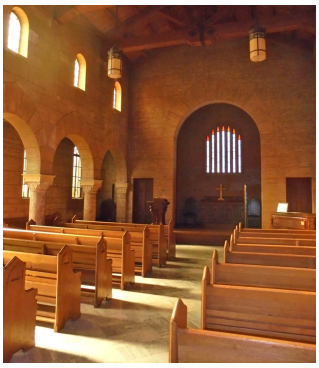
## 向き合う場所
## ソールチャペル

中高部の生徒だったとき、ソールチャペルは特別な場所でした。しかし受けた印象は強く、少し薄暗い中、朝はほのかに、夕方は煌めくように差し込んでくる窓からの光は、神さまの存在を一番感じる場所だったように思います。暗黙の了解として、ソールチャペルには用事もなく入ってはいけない、その前を通る時は静かにさっと通るようにしないといけない、と当時多くの生徒は認識していました。大学に進学し、学内で行く場所が増えるようになって、毎日を過ごす場所は図書館本館やクラブ棟（社交館）などに変わり、当時大学礼拝は講堂で行われていたのでソールチャペルに入ることは４年間を通して公にはありませんでした。が、白状しますと、大学生のとき、こっそり入っていました。

金色の十字架や７本の蝋燭が描かれたステンドグラスを眺めながら、学校の課題やクラブ、アルバイトや習い事等でパンパンになった生活から逃れるように一息ついていました。座りながら考えていたことはその時々で違っていましたが、最後は必ず目を閉じて「ありがとうございました」と心の中で唱えていました。

今思うと、私はソールチャペルで心を落ち着かせ、自分を見直す機会を何度も与えられました。まだ教会に通っていなかった当時、それは祈りとはよべない稚拙で自分のことで精一杯な時間でしたが、それを与えてくれたのは他ではない神さまだったと思います。

（チャプレン室）



ソールチャペル

# 大 学 報 告

## 大学基準協会による認証評価結果

2004年度以来、日本の大学は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を７年以内の周期で受けることが義務づけられています。本学もこれに則り、2015年度に大学基準協会による認証評価を受審しました。評価は、大学の理念、教育組織や教員、教育内容・方法・成果、学生の受け入れや支援などの合計10に及ぶ基準に関して詳細に行われました。

受審に際し、2014年度に「2014（平成26）年度 神戸女学院大学 自己点検・評価報告書」を作成し、大学基準協会に提出しました。この報告書は2014年５月より大学・学院の関連部署の方々に分担執筆をしていただき、幾度にもわたって修正を経たものです。

この「報告書」をもとに2015年10月29日～30日の２日間、大学基準協会の評価委員による実地調査が行われました。その結果、「貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は2023（平成35）年３月31日までとする。」との認定を受け、2016年３月23日に公表されました。

７年に１度の認証評価を受けるにあたり本学が目指していたことは、この度の自己点検・評価を大学全体の総合的自己点検・評価のよい機会としてとらえ、本学が掲げている理念がどれほど各組織に浸透しかつその理念に基づいて教育・研究・学生支援がなされているかを検証し、今後の本学の歩みと発展に資することにありました。もとより自己点検・評価については、本学の各学部、各研究科、および各部署において行われており、その結果は活動計画評価報告書にまとめられています。しかしながら、この毎年度行われている点検・評価は、ともすれば各学部、各研究科、および各部署内部にのみ視野が限定され、大学全体の点検・評価が十分なされにくい傾向が否めなかったのも事実です。これが大学全体の総合的自己点検・評価を目的としたゆえんであります。

認証評価受審につきましては、長期間にわたって、大学・学院の関連部署の方々に多大なご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（FD センターディレクター）

認定証

## 地域創りリーダー養成プログラムの取り組み

本プログラムでは、地域に根ざした課題を自分達で見つけ、西宮市や地域住民の方々と連携し、その課題の解決に向けた取り組みを行っています。今回はその中の二つの取り組みを紹介いたします。

昨年度、学生達は小学生を対象とした防災イベントを企画実行しました。その取り組みは高く評価され、今年度は西宮市内の各小学校区にて定期的に開催される市主催の防災訓練に参加協力しています。４月10日は西宮浜小学校、５月22日は広田小学校で実施し、今後さらに４校区での訓練に参加予定です。

訓練では子ども対象の防災学習コーナーを担当しています。人気アニメを参考に「防災ウォッチ」と銘打ち、地震発生時にケガの原因となりうるものや体を守ってくれるものを、お手製の妖怪キャラクターに見立て、ゲームやクイズを通じて分かりやすく伝えています。

もう一つの取り組みとして、今年度は西宮市北部地域の活性化を目的に活動しています。山口町のある北部地域は美しい自然に溢れていますが、人口減少・高齢化などの問題を抱えています。学生達は山口町の魅力を紹介するために、自治会の協力の下、今年度開催される様々な行事に参加する予定です。まずは４月２日に開催された「さくらまつり」で、山口町にゆかりのある考徳天皇の行幸行列を再現するイベントに女官役で出演しました。今後も自治会の方々と共に、少しでも多くの若者が山口町に関心を持つような取り組みを行っていきます。

（人間科学部　ESD 推進室）

防災学習の様子

考徳天皇の行幸行列にて
女官に扮した学生

## The Japanese Migration to Hawaii: Our Experiences

２月８日～17日の間、本学学生10名と教員２名がフィールドスタディで日系移民の歴史や文化、そして多文化共生などについて学ぶためハワイを訪れました。今では美しいリゾートとして有名なハワイですが、約150年前から日本人が移住して苦労してきた歴史があります。

私たちはカピオラニコミュニティカレッジ・ハワイ大学マノア校、ハワイ日本文化センター、コーヒーとカカオ農園、ハワイプランテーションビレッジ、老人ホーム、パールハーバーなど毎日いろいろな場所を訪れてたくさんの方々のお話を伺いました。

日本からハワイへの最初の移住は1868（明治元）年で、移民たちは日本での貧しい生活から抜け出すためにハワイへやってきましたが、プランテーション（さとうきび、コーヒー、パイナップルなどの農園）で働いた彼らは低賃金、長時間労働で、さらに住居環境もけっして良いものではありませんでした。プランテーションでの生活は過酷でしたが、日系一世、二世は子どものために「仕方がない」「我慢」「忠義」「おかげさまで」「感謝」「恥、誇り」などの言葉を心の支えにしながら必死で働きました。1941年に日本軍が引き起こした真珠湾攻撃のあと、日系アメリカ人の中にはアメリカ軍に敵とみなされて収容所に入れられた者や、逆に志願兵となり日系アメリカ人たちで部隊を結成し、アメリカ側としてヨーロッパや太平洋戦線に参戦してアメリカへの忠誠心を示した者もいました。彼らは“アメリカ人”のアイデンティティを持ち、アメリカのため、そして家族のために戦ったのです。今もハワイに暮らしている三世、四世、五世たちは「おかげさまで」と彼らの親たちに感謝しています。

私たちはこれまでこのような移民について学ぶ機会はあまりなかったように思います。ハワイに限らず、世界中にいる移民の歴史について知り、学ぶことは非常に大切だと気付きました。このフィールドスタディで学んだことを広く伝えていきたいです。

（英文学科教授　Yolanda Tsuda）

修了式にて

## サイエンスキャンプ

人間科学部環境・バイオサイエンス学科では、高大連携の一環として協定校である和歌山信愛高等学校とプール学院高等学校の理系を志す高校２年生を対象に、３月23日～24日にサイエンスキャンプを実施しました。サイエンスキャンプとは、２日間にわたり大学で行っている実験に取り組むプログラムです。

実験は２テーマを設定し、ひとつは酵素反応速度を求めるもので、高校数学で習う微分や積分等を基礎として生体内での反応を解明するという内容でした。もうひとつは水質分析で、分析会社等で使用されている機器を用いて、水中に含まれる汚染物質の濃度を測定することにより、機器分析の原理や環境化学の基礎を学ぶものでした。高校生たちは実験体験が少ないため、大変興味深く熱心に実験に取り組んでいました。また、本学の大学院生や大学生たちが学内を案内して、この学び舎で学問ができることの喜びをはじめ本学の長所をアピールするとともに、高校生と一緒にケンウッド館に宿泊し、理系分野を学ぶ楽しさや将来の夢等を語り合いました。

サイエンスキャンプに対するアンケートには、実験は少し難しかったが、本学の学生さんたちに親切、丁寧に教えていただき内容が良く理解できた、有意義で楽しい２日間を過ごすことができた等好評をいただきました。本学科では、このような理系に興味を持つ多くの生徒が受験してくれることを望んでいます。

（環境・バイオサイエンス学科教授　張野 宏也）

高校生たちが実験をしている様子

## Meal for Refugees @ Kobe College

文学部 英文学科　４年生（当時）

１月25日～26日に、Meal for Refugees（Ｍ４Ｒ）を新社交館食堂で行いました。Ｍ４Ｒは全国の大学食堂や企業食堂で導入されている企画で、日本にいる難民の故郷の味を再現した対象メニュー１食につき20円～50円が日本にいる難民に寄付されるというものです。今回は、日替わりランチ１食370円のうち40円を寄付するという形で実施いたしました。初日はスリランカの鶏肉と野菜のスパイシー炒め、２日目はミャンマー・チン州の鶏肉と小松菜のカレーを、カレー炒めとして提供いたしました。

私がＭ４Ｒに出会ったきっかけは、昨年８月に東京で行われたWISE（Women's Initiative for Summer Empowerment）への参加です。女性が社会で活躍していくためにはどうしていくべきか、女性と社会にフォーカスを置き、様々な場で活躍する女性方と出会い、考え、学んでいくプログラムでした。その中で、Ｍ４Ｒを行っている日本難民支援協会を立ち上げた女性のお話を聞き、そこで日本にいる難民について学びました。神戸女学院でもこの企画を実施したいと思い、導入するにいたりました。

今回の企画が、一人でも多くの人にとって難民を身近に感じ、興味を持ち、考えるきっかけとなっていればと思います。

また、今回お世話になりました新社交館食堂の方々、学生生活支援センターの方々に深く御礼申し上げます。

鶏肉と小松菜のカレー炒め

## 四大陸フィギュアスケート選手権の国際ボランティアで得たもの

文学部 英文学科　３年生

２月15日から23日まで四大陸フィギュア選手権のボランティアとして台湾に行ってきました。

いろいろな役割分担の中で、私はSite Controlという誘導係に相当するチームに配属され、日本人観光客に対応できる人が必要という事で、観光客の多いエリアの担当になりました。そこでは、日本人観光客と現地ボランティアの意思疎通のための通訳などが主な仕事です。当然英語は日常的に使っていましたが、私は韓国語も話せるので、時には韓国語と英語の通訳といった対応をする事もありました。３ヶ国語を使って様々な人たちの対応ができたことにはとてもやりがいを感じました。

また、エリアの誘導係だけではなく授賞式の準備なども私の役割でしたので、リンク上に行き、選手の晴れの舞台のお手伝いができ、とても貴重な経験をさせていただきました。

現地でのフェアウェルパーティーではAFP通信の方から「一番頑張っていたボランティア」としてお褒めの言葉をいただき、無事役目を果たすことができたことを実感しました。

このボランティアを通して得たプラスになるたくさんの経験、そして友情を深めることができた日本からの５人、韓国からの２人、台湾からのたくさんのボランティアやスタッフ。

この経験と、出会えた素敵な日韓台の仲間たちは、私にとってかけがえのない宝物になりました。

応募するときは、合格者６人という狭き門に怖気づいた私ですが、チャレンジして本当によかったと思っています。

競技終了直後のリンクで日韓台のボランティアと

## 学内にコンビニエンスストアが開店

４月５日、文学部２号館１階にコンビニエンスストア「セブン-イレブン AIM 神戸女学院大学店」が開店しました。長きにわたり学生からの出店の要望が強く、また数年にわたって複数のコンビニ本部から出店の提案を受けていた中、商品・サービスなど諸々の条件面から、キャンパスアメニティ向上に資すると確信し、セブン-イレブンに出店をお願いすることとしたものです。

開店準備の過程ではセブン-イレブン側、学内側とも多くの調整すべき事項があり、暗礁に乗りかけたこともありましたが、その度に “Students First” の理念に立ち返り、学内一丸となって課題を解決し、開店に漕ぎつけました。

開店決定後は学生自治会を中心とした有志メンバーがコンビニ開店準備プロジェクト “Project 7（セブン）” を結成し、品揃え要望の取りまとめや、開店イベントの企画など多方面に活躍してくれました。特に開店イベントでは、テープカットや記念抽選会の実施など、セブン-イレブン本部の方も「こんな盛り上がりははじめて見た」と驚きを見せるほどでした。

開店後は幸い売り上げも好調に推移しており、学生生活に早くも溶け込んでいます。昼休みの行列の長さや、購入後の喫食場所等の問題など、出てくる課題を解決しながら、長く学生に親しまれる存在であり続けることを願っています。

末筆ながら、開店にあたりご協力いただきました学内外のすべての方々に厚く感謝申し上げます。

（総務課）

Project 7 のメンバー

## 熊本地震について

この度の熊本地震で被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。本格的な復旧、復興に向けて１日も早く進み出されますようお祈りいたします。

本学院におきましても、地震発生後速やかに被災地出身の在学生16名、ならびに学生・生徒のご家族に安否確認を行いました。家屋については損壊等さまざまな被害状況を確認しましたが、幸い人命等人的被害は発生しておりません。

学院では、４月18日～28日に学内窓口に寄せられました募金273,796円を第一次熊本地震義援金として日本赤十字社を通してお献げしました。

引き続き６月30日まで第二次熊本地震義援金を募っています。

## 重文パンフレット Web 版完成

この度、「重要文化財　神戸女学院」のホームページが完成しました。重要文化財に指定された12棟の建物を写真でお楽しみいただけます。また、パンフレットのダウンロードもできます。そして、ヴォーリズの献堂讃美歌もお聴きいただくことができます。ぜひご覧ください。

## シェイクスピア・ガーデン HP 完成

2016年春にシェイクスピア・ガーデンのホームページが完成しました。シェイクスピア作品の中に登場する植物の美しい写真と、シェイクスピアの引用箇所ならびに植物的説明が記載されています。とても素敵なホームページになりましたので、ぜひご覧ください。

家庭会大学部会総会報告

個人情報保護のため、
23ページ目から24ページ目は削除しています。

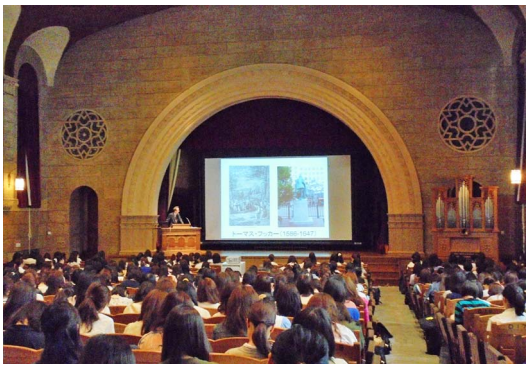
## 大学春季宗教強調日礼拝
### （創立者記念日礼拝）

創立者イライザ・タルカット先生の誕生日に近い５月20日（金）、春季宗教強調日礼拝ならびに創立者記念日礼拝として、学院チャプレンの飯　謙先生に「創立者イライザ・タルカット先生（1836-1911）―神戸女学院建学の祈り―」と題し、ご講演していただきました。

「Non sibi（自分のために、ではなく）」の言葉に象徴されるようなタルカット先生の歩みを、アメリカに訪問された際の写真や資料また肉筆の資料等が掲載されたスライドを通してお話しされました。「他者の呼びかけに応答する精神的な開放性」「たゆまぬ自己鍛錬」「自立（自律）性へのこだわり」という私達へのメッセージを大切にし、タルカット先生を範とする「共感性の高い人格」への成長を学生一人一人が目指していけるようミッションステートメントについてもお話しされました。創立者についてはじめて学んだ新入生、礼拝に集まった在学生・教職員も改めて先生の思いを心に留めた日となりました。

この１週間は愛校週間として礼拝をまもりました。前日19日（木）には神戸再度山にあるタルカット先生の墓前にて礼拝をおこない、その後神戸女学院の最初の敷地である神港学園にも立ち寄りました。創立140年をこえた今、先人達の思いと残して下さった数々の貴重な宝を大切に守り、そして次に伝えていくことの重要性を再度鑑みる機会となりました。今年も建学の精神について良い学びの時を持つことができ、深く感謝いたします。

（チャプレン室）



春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）

## 2015年度　大学図書館報告

1．統計

• 蔵書数

| | 2015年度受入 | 2015年度末現在 |
|---|---|---|
| 和書 | 2,715冊 | 256,182冊 |
| 洋書 | 699冊 | 170,501冊 |
| 合計 | 3,414冊 | 426,683冊 |
| AV 資料 | 48点 | 3,999点 |

• 2015年度貸出状況

| 学　生 | 教職員 | 外来者 |
|---|---|---|
| 39,319冊 | 4,385冊 | 1,222冊 |

• 2015年度相互利用

| | 文献複写 | 図書貸借 | 閲覧 | 照会 |
|---|---|---|---|---|
| 依頼 | 658件 | 80件 | 8件 | 6件 |
| 受付 | 394件 | 26件 | 14件 | 14件 |

2．受入図書

• 教育資料費による購入図書
『叢書　日本の童謡』全38巻　ほか　計97タイトル

• 寄贈図書
『子どもと本』　ほか　計184冊

• 寄贈視聴覚資料　計１点

3．その他

• クラス別ガイダンス　42回実施

（大学図書館課長）

## 新刊一覧

石川康宏（総合文化学科教授）　他著
『戦後70年の日本資本主義』　（新日本出版社）

河西秀哉（総合文化学科准教授）　著
『明仁天皇と戦後日本』　（洋泉社）

# 2016年度　大学・大学院入学試験結果概要

## ●大　学

| 学　部 | 学　　科 | 入学定員 | 入学者数 |
|---|---|---|---|
| 文学部 | 英文学科 | 150 | 175 |
| | 総合文化学科 | 200 | 237 |
| 音楽学部 | 音楽学科 | 46 | 49 |
| 人間科学部 | 心理・行動科学科 | 90 | 104 |
| | 環境・バイオサイエンス学科 | 80 | 90 |
| 合　　計 | | 566 | 655 |

## ●大　学〔編入学（3年次）〕

| 学　部 | 学　　科 | 入学定員 | 入学者数 |
|---|---|---|---|
| 音楽学部 | 音楽学科 | 1 | 1 |

## ●大学院（修士課程・博士前期課程）

| 研究科 | 専　　攻 | 入学定員 | 入学者数 |
|---|---|---|---|
| 文学研究科 | 英文学専攻 | 13 | 6 |
| | 比較文化学専攻 | 5 | 1 |
| 人間科学研究科 | 人間科学専攻 | 10 | 12 |
| 音楽研究科 | 音楽芸術表現専攻 | 7 | 8 |
| 合　　計 | | 35 | 27 |

## ●大学院（博士後期課程）

| 研究科 | 専　　攻 | 入学定員 | 入学者数 |
|---|---|---|---|
| 文学研究科 | 英文学専攻 | 2 | 0 |
| | 比較文化学専攻 | 2 | 0 |
| 人間科学研究科 | 人間科学専攻 | 2 | 1 |
| 合　　計 | | 6 | 1 |

# 2016年度　在籍学生数

（2016年5月1日現在）

## ●大　学

| 学年 ＼ 学部・学科（専攻） | | 文学部 | | | 音楽学部 | 人間科学部 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 英文学科 | 総合文化学科 | 小計 | 音楽学科 | 心理・行動科学科 | 環境・バイオサイエンス学科 | 小計 | |
| 1年 | 16000 | 175 | 237 | 412 | 49 | 104 | 90 | 194 | 655 |
| 2年 | 15000 | 176 | 229 | 405 | 50 | 96 | 90 | 186 | 641 |
| 3年 | 14000 | 172 | 213 | 385 | 35 | 99 | 96 | 195 | 615 |
| 4年 | 13000 | 159 | 212 | 371 | 51 | 94 | 86 | 180 | 602 |
| | 12000 | 19 | 18 | 37 | 0 | 0 | 2 | 2 | 39 |
| | 11000 | 1 | 6 | 7 | 0 | 0 | 1 | 1 | 8 |
| | 10000 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| | 09000 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 合　計 | | 703 | 916 | 1619 | 185 | 394 | 365 | 759 | 2563 |

## ●大学院修士課程・博士前期課程

| 学年 ＼ 研究科・専攻 | | 文学研究科 | | | 人間科学研究科 | 音楽研究科 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 英文学 | 比較文化学 | 小計 | 人間科学 | 音楽芸術表現 | |
| 1年 | 1600 | 6 | 1 | 7 | 12 | 8 | 27 |
| 2年 | 1500 | 5 | 3 | 8 | 10 | 9 | 27 |
| | 1400 | 1 | 2 | 3 | 1 | 0 | 4 |
| | 1300 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 1200 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 1100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合　計 | | 12 | 6 | 18 | 23 | 17 | 58 |

## ●博士後期課程

| 学年 ＼ 研究科・専攻 | | 文学研究科 | | | 人間科学研究科 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 英文学 | 比較文化学 | 小計 | 人間科学 | |
| 1年 | 1600 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 2年 | 1500 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 3年 | 1400 | 1 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| | 1300 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 1200 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 1100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合　計 | | 2 | 0 | 2 | 4 | 6 |

## ●科目等履修生

| | |
|---|---|
| 学　部 | 5 |
| 大学院 | 0 |

## ●聴講生

| | |
|---|---|
| 学　部 | 3 |
| 大学院 | 4 |

## 2015年度就職決定状況

| | 卒業生数 | 希望者数 | 決定者数 | 決定者／希望者 | 進学者数（大学院） | 決定者／（卒業生－進学者） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 英　　文 | 168 | 153 | 151 | 98.7% | 2 | 91.0% |
| 総合文化 | 222 | 204 | 202 | 99.0% | 4 | 92.7% |
| 音　　楽 | 40 | 18 | 15 | 83.3% | 8 | 46.9% |
| 心理・行動 | 104 | 85 | 82 | 96.5% | 14 | 91.1% |
| 環境・バイオサイエンス | 91 | 79 | 78 | 98.7% | 5 | 90.7% |
| 総　　計 | 625 | 539 | 528 | 98.0% | 33 | 89.2% |

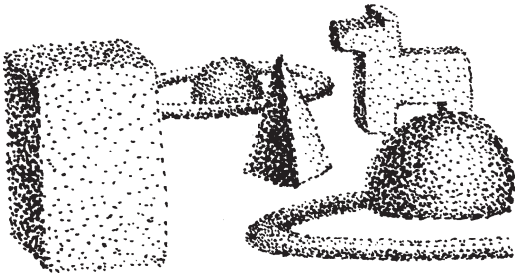
（2016年４月末現在）

2015年度卒業生の就職率（就職希望者に対する就職者の割合）は98％で、前年度を１ポイント上回りました。企業の採用選考活動スケジュールの大幅な後ろ倒しの影響で、2015年度の就職活動は「オワハラ」が流行語になるなど様々な混乱の中、本学でも長期化しましたが、景況感の改善も伴って各企業の採用意欲は高く、学生たちには売り手市場でした。一方、スケジュールが大きく変更されたことで過去の事例がそのまま参考にはならないこと、卒業論文や卒業研究への影響、真夏の就職活動で学生たちの健康面が心配されたことなど不安な面もありました。そのような環境の中、卒業者に対する就職希望者の割合が86.2％、就職希望者の98％が就職を決定し、その就職決定先が第一希望群との回答も80％を超えていることは、学生たちが各自の進路についてしっかり考え、その目標に向かって最後まであきらめず取り組んだ結果だと言えます。

産業別では例年同様、金融・保険業が28.9％と３割近く、次に卸売・小売業、サービス業、運輸・郵便業、製造業が続いています。特に、航空が客室乗務職、地上職併せて34名で昨年を大きく上回ったこと、また国語の教職課程が開設され第１期生となる３名が、大阪府、大阪市の採用試験（中学国語）に合格し採用されたことは、非常にうれしいニュースでした。

キャリアセンターでは、学生たちが自身の将来について自ら考え選択するため、学ぶ場・知る場を数多く提供することを目的に、年間130日を超える大小のサポートプログラムを実施しています。今後も学生一人一人に丁寧なきめ細かい指導を心がけ、より充実した支援を目指していきます。

（キャリアセンター課長）



**主な就職先**

建設業
積水ハウス／竹中工務店／日建設計

製造業
大阪特殊合金／オリバー／極東開発工業／櫻護謨／シスメックス／住友電気工業／積水化学工業／東ソー／トラスコ中山／中西金属工業／ニトリ／日本圧着端子製造／ハイレックスコーポレーション／ピップ／ファミリア／村田製作所／ヤンマー／ロックペイント

情報通信業
ソフトバンク／日本アイ・ビー・エム／富士ソフト／ビクターエンタテインメント／毎日放送／阪技

運輸業、郵便業
全日本空輸／ANA エアポートサービス／ANA 成田エアポートサービス／ANA 中部空港／ANA 関西空港／ANA 大阪空港／日本航空／JAL スカイ／JAL スカイ大阪／JAL スカイ九州／JAL スカイ那覇／エミレーツ航空／シンガポール航空／西日本旅客鉄道／ジェイアール東海パッセンジャーズ／上組／後藤回漕店／日本郵便

卸売業、小売業
青山商事／アズワン／イオンリテール／宇仁繊維／エノテカ／エム・シー・ヘルスケア／岡本無線電機／サンコーインダストリー／ジェイアール西日本商事／神鋼商事／神明ホールディング／大丸松阪屋百貨店／ダイワボウ情報システム／デュプロ／日伝／日本酒類販売／布亀／PALTAC／阪急阪神百貨店／ビームス／三菱商事テクノス／ヤナセ

金融業、保険業
みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行／三菱東京 UFJ 銀行／りそなグループ／ゆうちょ銀行／京都銀行／関西アーバン銀行／みなと銀行／紀陽銀行／山陰合同銀行／中国銀行／伊予銀行／福岡銀行／三井住友信託銀行／大和証券／野村證券／SMBC 日興証券／みずほ証券／三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券／あいおいニッセイ同和損害保険／三井住友海上火災保険／損害保険ジャパン日本興亜／東京海上日動火災保険／日本生命保険／明治安田生命保険／尼崎信用金庫／播州信用金庫／但陽信用金庫／オリックス／三井住友トラスト・ビジネスサービス／三菱 UFJ トラストビジネス／MYJ

不動産業
JR 西日本デイリーサービスネット／三井住友トラスト不動産／三井不動産リアルティ

宿泊業
阪急阪神ホテルズ／ホテルオークラ神戸／リゾートトラスト

医療、福祉
社会医療法人愛仁会／淀川キリスト教病院／社会保険診療報酬支払基金

教育、学習支援業
大阪府中学教員／大阪市中学教員

サービス業
アンダーソン・毛利・友常法律事務所／京都監査法人／エイチアールワン／中央復建コンサルタンツ／NTT ファシリティーズ関西／高見（TAKAMI BRIDAL）／インテリジェンス／スタッフサービス・ホールディングス／マイナビ

公務
大阪高等裁判所／大阪府警察／堺市／兵庫県／三木市／生駒市

**主な進学先**

英文学科
神戸大学大学院　人間発達環境学研究科／神戸女学院大学大学院　文学研究科

総合文化学科
同志社大学大学院　神学研究科／大阪大学大学院人間科学研究科／神戸女学院大学大学院　文学研究科

音楽学科
神戸女学院大学大学院　音楽研究科

心理・行動科学科
東京成徳大学大学院　心理学研究科／京都文教大学大学院　臨床心理学研究科／大阪市立大学大学院生活科学研究科／関西大学臨床心理専門職大学院／梅花女子大学大学院　現代人間学研究科／甲南女子大学大学院　人文科学総合研究科／神戸親和女子大学大学院　文学研究科／神戸女学院大学大学院　人間科学研究科

環境・バイオサイエンス学科
京都大学大学院　人間・環境学研究科／大阪大学大学院　工学研究科／奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科／神戸女学院大学大学院人間科学研究科

## 2016年度　キャリアサポートプログラム（予定）

◆３年生対象

5/11(水)　就職ガイダンス①
5/25(水)　インターンシップガイダンス
　　(学内募集)
6/ 1(水)　インターンシップガイダンス（公募）
6/15(水)　インターンシップ選考対策講座
7/ 6(水)　就職ガイダンス②
7/15(金)　SPI 模擬試験
7/20(水)　就活対策セミナー：
　　「採用選考」の流れを知る
8/ 1(月)～4(木)・8(月)
　　企業・業界研究ワークショップ
8/29(月)～31(水)
　　自己分析とコミュニケーション講座
9/ 5(月)～9(金)
　　KC エアラインスクール　（有料）
9/12(月)・13(火)　初期選考突破のための特訓講座：
　　エントリーシート編（有料）
9/14(水)～16(金)　初期選考突破のための特訓講座：
　　SPI 編（有料）
9/28(水)　就職ガイダンス③
10/12(水)　就活ベーシック講座：就活マナー
10/26(水)　就活ベーシック講座：筆記試験
11/ 9(水)　就活ベーシック講座：「自己 PR」入門
11/16(水)　職種研究講座①：営業職編
11/30(水)　就活ベーシック講座：履歴書
12/ 7(水)　就活ベーシック講座：
　　エントリーシート
12/14(水)　職種研究講座②：事務職編
12/21(水)　企業・業界研究のための講座
1/11(水)　就活アドバンスト講座：
　　グループディスカッション
1/18(水)　就活アドバンスト講座：面接
1/21(土)　就活アドバンスト講座：
　　グループディスカッション（実践①）
2/ 3(金)　就活総おさらいセミナー
2/ 6(月)～10(金)　面接体験講座　（有料）
2/ 6(月)　就職ガイダンス④
2/ 7(火)　就職ナビの使い方セミナー
2/ 8(水)　企業・業界の選び方セミナー
2/ 9(木)　中小企業研究セミナー
2/10(金)　お勧め企業紹介セミナー：
　　学内セミナー参加企業編
2/15(水)　初期選考直前対策講座：
　　SPI テストセンター編
2/16(木)　初期選考直前対策講座：玉手箱編
　　初期選考直前対策講座：
　　履歴書・エントリーシート編
2/17(金)　就活アドバンスト講座：
　　グループディスカッション（実践②）
2/20(月)　お勧め企業紹介セミナー：OG 企業編
３月　　学内企業セミナー

◆４年生対象

4/ 7(木)、11(月)、12(火)、13(水)、
　21(木)、28(木)　学内企業セミナー
4/ 8(金)、15(金)、22(金)、26(火)　模擬面接講座
4/18(月)　模擬 GD 講座
4/25(月)　就活総おさらいセミナー
5/13(金)、18(水)、20(金)、24(火)、5/27(金)、
6/10(金)、17(金)、24(金)　模擬面接講座

◆２年生対象

7/ 8(金)　進路ガイダンス
1/20(金)　就職ガイダンス

◆１年生対象

7/ 1(金)　キャリアガイダンス

◆１～３年生対象

5/20(金)　公務員ガイダンス（仕事編）
5/27(金)　公務員ガイダンス（試験対策編）
6/ 3(金)　公務員受験対策講座説明会
　　神戸市による公務員ガイダンス
11～12月　仕事発見セミナー
２月　　企業研究セミナー

◆資格講座開講

秘書技能検定講座２級・準１級　春期・秋期２回実施

＜受入れ留学生報告＞

## 自分探しの一年間

広東外語外貿大学交換留学生

日本に来て神戸女学院大学に通い始めてもうすぐ一年間が経つ。神戸女学院大学での留学は、自分の将来や生き方に不安と疑問を抱えている二十歳の私にとって、素敵な出会いを与えてくれる自分探しの一年間だった。

その中で私が一番印象に残ったのは、合気道を通じての出会いや経験である。学問を続けながら道場を持って武道も研き続けている内田樹先生をはじめ、明確な目標を持ち続けながら、勉強やサークルなどで活躍している東大生や早稲田大生の方々、女性らしくおしゃれな女学院生など、自分と全く違う人と出会ってきた。日本に留学に来ず、ずっと中国にいたら多分一生出会えない人と出会って、世界の多様性、生き方の可能性を自分の目で見たのだ。そして、自分自身の視野も広げることができた。

神戸女学院大学合気道部に入ってから、私は道場に通ってお稽古をはじめた。初めての昇級審査を受けるのに、決められたお稽古の回数をこなすため、朝４時頃に起きて始発電車に乗り、道場で６時半からのお稽古に参加した。私にとって、これはもう限界だと思ったが、朝稽古が終わってから間もなくはじまる10時のお稽古にも続けて参加した人がいた。自分の限界は誰かにとってはただの日常だということを気づかされた。悔しく思いながら、自分の可能性も信じはじめてきたのだ。

留学の貴重な１年間のおかげで、意欲と希望に満ちた明日が見えてきた。苦しくも楽しかったこの一年に、出会った全ての人々のために、これからはもっと優しく、強くなりたい。これから自分に向かってくる困難を全て受け止めて弾き返せるほど強く。自分の「人生」というものを、満喫し尽くそうと思った。

## 素晴らしい留学

広東外語外貿大学交換留学生

この一年間の生活は、感動と視野の広がりを私に与えてくれた。

感動したことは留学の間にたくさんの親切な方々に出会って、いろいろ助けてもらったことである。まず、まだ日本に来ていない時に、国際交流センターの職員の方から、メールで学校のことをいろいろ紹介してもらい、安心した。そして、学校や西宮市の活動に誘ってくださったおかげで、留学生活が豊かになった。神戸女学院で出会った友達も一生の友のようにずっと付き合っていきたいと思う。その中で特に寮生のことを話したい。寮に住んで初めての日の点呼の時、向かいの部屋の子が笑顔でこんばんはと挨拶をしてくれて、その時に寮で生活をしていけそうな気がした。その日からその寮生が引っ越しするまで毎晩「おやすみ」をお互いに言い続けてきた。寮の生活は本当に落ち着く。

視野が広がるというのは、ボランティアをやって初めて、日本の子どものこと、障害のこと、福祉のことなど中国では一度も考えたことのないことを考えはじめた。そして、北海道、九州、関東、関西を見物したり、日本の自然に近づくことによって、その土地に住んでいる人々の心にも近づくように感じた。

神戸女学院に来てから毎朝目が覚める度に、幸せだと思うほど素晴らしい留学生活を送っている。素敵な人にたくさん出会って、全然違った文化を体験し、いろいろな興味を持つようになった。そして自分と向き合うチャンスが多くなって、自分自身の本当にやりたいことや、自分にあうライフスタイルなども新たに発見することができた。この一年間で勉強してきたものは、貴重な思い出として心の中に永遠に残っている。女学院との結びつきはこれからの人生にたくさんの可能性を与えてくれた。これからもチャレンジをし、一歩一歩、歩んでいくつもりだ。

## 来てよかった

広東外語外貿大学交換留学生

神戸女学院に来てから、すでに７か月経った。帰国する日もだんだん近づいてきた。日本に来る前に、10か月の留学期間は長いと思ったが、時間が過ぎるのは想像以上に早かった。本当に楽しい時間はいつも早い。得たものも想像以上に多かった。

大学に入ってからずっと日本へ留学したかった。いろいろな原因で叶わなかったが、院生になってようやくチャンスを得た。関西空港に着陸する時、滑走路両側の海を見て、わくわくした気持ちはいまでも覚えている。初めて日本に来るので、不安だった。しかし、国際交流センターの方とのメールのやりとり、空港まで迎えに来てくれたバディさんの優しさ、そして寮の皆さんの笑顔、ウェルカムパーティでの皆さんの親切さに安心した。

学業では、修論を書くのに笹尾先生が指導教員になってくださった。真面目で優しい先生である。丁寧に指導してくださるおかげで修論を書くのが徐々に進んでいる。勉強以外に、東京や北海道などに行った。違う景色を見ながら異なる日本の美しさを体験した。

一番感謝しているのは合気道部に参加したことだ。最初は自分だけが院生で、部員たちとギャップがあるのではと心配したが、みんな明るく、いつも優しくしてくれた。合気道部に入ることがきっかけで内田樹先生の凱風館という道場に通うようになった。ここで、大学の教授、作家、建築家、サラリーマンや主婦などいろいろな社会人と出会って、いろいろな日本のことを理解し、楽しい時間を過ごしながらいい勉強にもなった。

最後に、指導教員の笹尾先生、国際交流センターの職員の方、バディさん、他お世話になった皆さんにお礼を申し上げたい。

日本に来てよかった。神戸女学院に来てよかった。ありがとう。

**＜中期英語留学報告＞**
**チャタム大学**

## アメリカ留学で感じたこと

文学部 英文学科　４年生

私は、約７ケ月間ペンシルバニア州ピッツバーグ市にあるチャタム大学に行ってきました。初めての海外生活は、目にするもの全てが新しく、毎日発見や驚きの連続でした。様々な国や地域から人が集まっているアメリカは文化の共有に持ってこいの国だと思います。留学期間中、友人達との会話で一番盛り上がったのは、お互いの文化や言語についてでした。日本文化を英語で説明するのはとても難しく、理解してもらうのに時間がかかることもありましたが、理解しあった時や日本に興味を持ってくれた時はとても嬉しかったです。文化の共有は留学の一番の醍醐味です。互いの文化について話すこと、そして自国の文化を客観的に見ることで今まで自分の知らなかった考え方や文化に触れることができ、自分の価値観を広げていく機会にも繋がりました。これから留学に行く人たちにも、英単語までは分からなくても、最低限日本の文化や歴史について少しでも多くの知識を身に付けて留学に行くことをおすすめしたいです。この留学で、あくまでも学生としての視点ですが、日本がどのような国なのかを客観的に見つめ、そしてアメリカを実際に内側から見て、双方の長所短所をたくさん見つけられたと思います。家族や友人、先生方などたくさんの人たちのおかげで充実した留学生活を送ることができました。これからもこの留学で学んだこと、感じたことを活かし、まだまだ英語の勉強を続けていきたいと思います。

友人たちと中華料理店にて

＜中期海外研修報告＞

クイーンズランド大学

## 数えきれないほどの“出会い”

文学部 英文学科　３年生

オーストラリアで過ごした７ケ月間。平日はヨーロッパ、南米、アジア等、母国語も文化も異なる様々な国籍の人が集う学校で積極的参加型授業を受け、日々英語力を鍛えていきました。休日はブリスベンの街を散策し、実際にその街の空気を、雰囲気を感じとりました。地元の人たちの生活が垣間見え、その地の文化に触れる事ができるのは現地ならではの経験です。少し足をのばしてクイーンズランドの広大な自然も思う存分楽しみました。親元を離れ全てのことを自分で考えて行動しなければならない状況に置かれた時、何でも挑戦してみようと思い立ち、同時に何でもできる気がする！という自信が湧いてきました。市のフェスティバルをサポートするボランティア、児童に日本語を教えるボランティア、バリスタの資格取得など、興味のあることは一通り挑戦しました。そしてインターンシップ先でも満足のいく経験ができたのです。

今回の留学は間違いなく私のお金では換算できない大きな宝物となりました。英語を学ぶこと以上に行動力や考える力がつき、視野が広がりました。たくさんの人、それぞれの文化、いろいろな街、数え切れないほどの新しい出会いがあり、それは私の人生を豊かにしてくれました。人との出会いの数だけ意見や考えがあり、人と交流した数だけ自分のことを理解できます。この事に気付けたのも留学というチャンスを掴んだから。あの時留学するという決断をしてよかったと思います。

ヨーク大学

## Yueli についての海外研修報告

文学部 英文学科　４年生

出国前、私は２つの目標を掲げました。１つはスピーキングの向上、もう１つは全てにおいて全力で楽しむことです。これらを念頭におきとても充実した半年間を過ごすことができました。授業は３タームに分かれており０～６までのレベルがあります。幸いレベル５b からスタートしたものの、クラスメートの能力の高さに圧倒されリスニングが苦手だった私は授業についていけませんでした。初めのアクティビティーであるナイアガラの滝ツアーの帰りに、クラスメート２人と初めて不安や悩みを共有しました。それまでは話したこともありませんでしたが、同じ不安を抱えていたことを知り、その日から本当に良き友達、ライバルとして３人で高め合うことが出来ました。最後のタームのレベル６のクラスでは、スピーキングのビデオ録画、editing、article 等、様々なテストを通して何が自分に足りないか、どこを伸ばすべきかといった学生一人ひとりを見てくださる先生でした。この先生に出会ってから仕事、差別、文化に対する考え方が変わり、また自分の人生観を変えてくれました。Yueli には現地のヨーク大学の学生スタッフと会話ができる conversation partner や、また様々なトピックを扱う student discussion 等、英語を伸ばせる機会がいくつかあります。更に、寮には沢山の中国人が住んでいたり、学生団体 JISA で多くの友達を作ることが出来ました。この海外研修に参加して沢山の素晴らしい経験や出会いがあり、全ての時間がかけがえのないものです。

Student discussion の様子です。
友達が司会進行役だったので皆で駆けつけました。

＜語学研修報告＞
クイーンズランド大学

## 春期語学研修を通して学んだこと

文学部 英文学科　２年生

私は約５週間にわたってクイーンズランド大学（UQ）に研修に行きました。研修中の印象深い出来事の一つは英語学習の努力不足です。上手く伝えることができなくて自分の英語レベルの低さに落ち込みましたが、クラスメートが頑張っている姿、ホームステイマザーの支えで次第に前向きな気持ちに変わりました。課外活動も通して様々な国籍の学生と交流を図ることができ、それらの経験を通して、英語の上達を感じました。次にアボリジニ人の学校生活支援をしているホームステイマザーとの出会いです。彼女は私に様々なお話をしてくれました。その一つはアボリジニ人に関してです。彼女は以前実際に現地に赴いてアボリジニ人の生活支援をしていたのですが、コミュニティーの未開発、ドラッグ、カースト制度など問題が山積していたそうです。二つ目は難民問題です。助けを求め逃亡してきますが、実際は上陸できず政府が用意した近くの島々に送られるのです。その環境は悪く、そこで亡くなる人が多数だと言われます。加えて島の環境を維持するためオーストラリアの国民は多額の税を払っており、大問題になっているそうです。これらのことは初めて耳にすることばかりでとても驚き、同時に自分の知識の狭さに恥じました。彼女は別れ際に“You need to study to board your knowledge at your university”と声をかけてくれました。これからの大学生活のなかで国外の事にも目を向け、興味を持ち、自分の知識を広げていきたいと思いました。

クラスメイトとの全員集合の写真

＜私の研究＞

## 私の研究

景山　佳代子

ここ数年、原発や特定秘密保護法、安全保障関連法などをめぐり、「報道の自由」やメディアの報道姿勢などが大きな問題になっています。またSNSの発達により、マスメディアによらない情報の収集・発信が浸透するにつれ、「マスゴミ」といったメディア不信・批判がネットを通じ拡散するようにもなりました。私たちの「知る権利」を守るためにも、メディアの報道機能が以前にも増して重要な状況であるにもかかわらず、それを支えるメディアの経済的・社会的基盤はどんどん脆弱になっています。以上のような現状認識と、そこから導かれる報道の自由、言論の自由への危機意識から、地域ジャーナリズムとしての地方紙・地域紙の研究に取り組んでいます。

私はもともと週刊誌を研究対象に「風俗」についての研究を行っていましたが、振り返ってみると、それは戦後日本社会の変動を、人々の日々の営み、感性、日常の言語（政治言語や専門用語ではなく）から捉えたいという試みだったのだと思います。

いまの政治・社会状況を地方紙・地域紙から捉え返そうとしているのも、人々の日常生活、日常言語から出発した社会認識と、それの概念化を目指しているからです。そういう意味では大学院時代からあまり問題意識が変わっていないのかもしれません。ただ、大学院時代とは違う出会いや経験によって、自分の「問い」が、以前よりは明確になってきたかとは思います。

「10分で答えるのが評論家、10年考えるのが研究者」。大学院時代の師匠の言葉です。時流や流行りに流されない研究をする研究者でありたい。いま、それを一層強く感じています。

（総合文化学科准教授）

## 私の研究

塩見　尚史

20年前に神戸女学院大学に着任したときは、まだ人間環境科学専攻の時代で、学科長から「環境について研究をしてほしい」と言われました。企業の研究所で遺伝子組み換えを用いた医薬開発の研究をしてきた私は、考えた末、微生物を用いて環境を修復する技術である「バイオレメディエーション」の研究をすることにしました。人の薬のかわりに「地球の薬」を作ることにしたのです。今、中国やアジアでは、有害金属や農薬による土壌汚染や大気汚染がとても深刻で、作物が育たない土地や飲むと病気になる地下水が急増しています。そんな土壌や地下水、あるいは河川水を微生物の力でよみがえらせようというのが私の研究の目的で、新しい修復方法を考案しました。実用化は容易ではありませんが、このままでは地球が本当に病んでしまうので、この先も環境修復の研究を続けていくつもりです。

その後、環境・バイオサイエンス学科に変わり、健康領域になりました。それをきっかけに、「生活習慣病と老化の予防研究」を始めました。日本は2050年には２人に１人が65歳以上になり、老化予防は急を要する課題です。研究を進めると、生活習慣病の予防については興味深い結果が得られてきました。しかし、「老化」は研究をすればするほど生命の謎が深まるばかり。「若返り」の糸口しか見つかりません。

４年前には納得できない出来事から体調をくずし、大変な時期を経験しましたが、気持ちを立て直し、幼いころからずっと研究したかった「人はなぜ老いるのか」という課題に、もう一度取り組んでいます。気がつけばもう57歳で、研究人生も残りあとわずか。それでも、研究が根っから好きな私は、定年の日まで白衣を着て、「自分自身で実験を行う研究者」であり続けようと思っています。

（環境・バイオサイエンス学科教授）

＜ゼミ紹介＞

## うたうこと

松本　薫平

声楽は身体が楽器です。楽器購入にお金は掛かりませんが、買い換えはできません。２つと同じ楽器はなく、その人が持っている楽器を最大限生かすには、指導者の判断と本人の努力にかかっていると思います。どのようにに努力をするのか、それはその人に合った発声法を身につける事がまず第一だと思います。人はそれぞれ骨格、声帯の長さなど身体（楽器）が違います。まず自分の身体をよく知り、その時々の楽器に合った発声法を身につけることが一番の課題です。そしてその楽器を鍛えていかなければなりません。もともと持っている素質と努力によって、その楽器はストラディヴァリウスになるかもしれないし、努力の方向を間違えてガラクタ楽器になるかもしれません。

決して喉に負担をかけないこと。我々クラシックの声楽を勉強している者にとって重要な事は「大きな声」ではなく、「飛ぶ声」。「飛ぶ声」とは、2000人入るホールの端まできちんと聞こえることです。小さな部屋で練習していて大きな声だと感じても、それが「飛ぶ声」だとは限らないのです。身体全部を使って身体を響かせるのです。ちょうどチェロを身体に例えるとわかりやすいでしょうか。また、自分の中で聞こえている声が、必ずしも外に出ている声がいい声だとは限らないのです。声と同時に耳を鍛えることも大変重要になってきます。

「声を出すための身体作り」から始まり「作曲された背景」「社会的背景」「政治的背景」「語学理解」などから作曲家の書いた意図をくみ、自分なりの解釈を取り入れて表現する事が課題となります。

（音楽学科准教授）

レッスン風景

## 私のゼミ

吾妻　　壮

私の専門は精神医学ですが、その中でも精神分析を特に専門としております。私のゼミでは、３年生の間は精神医学、精神病理学および精神分析に関連する文献を一緒に講読し、議論することを中心に進めています。ゼミで用いる文献を選ぶのには若干苦労します。学生は当然のことながら臨床経験がないため、実際の患者あるいはクライエントの悩みというものがどのようなものなのかについて、実感を持つことが大変困難です。精神分析の文献は、一見理屈っぽく書かれていますが、必ず臨床的素材に基づいて、あるいは臨床場面を念頭に置いて書かれています。臨床経験のある人が読めば、「ああ、確かに」とすぐに納得することができそうな内容でも、学生にとっては想像することが難しいということがしばしば起こります。そのような事情を考慮しつつ文献を選ぶわけですから、いつも学生の反応が楽しみです。４年生になると、それぞれに関心のある領域の文献を選んで発表してもらいます。論文の内容をまとめて説明することは、彼女らにとってなかなか大変なようですが、私が全く知らない領域の文献を一緒に解読することは私にとっても楽しい時間です。赴任してまだ３年目で、昨年初めてのゼミ生が巣立っていきました。多岐にわたるテーマを立派に論文に仕上げてもらったように思います。今年はどんな卒論が生まれるのか、少し心配しつつも、楽しみにしています。

（心理・行動科学科教授）

３年生ゼミの一コマ

＜課外活動紹介＞

［クラブ］ **軽音楽部**

部長

私たち軽音楽部は、社交館１階の軽音楽部の部室で活動しています。部室にはスタジオがあり、部員は利用申請をすればいつでも使用することができます。固定の練習時間はなく、授業の空き時間やお昼休み、放課後を使って、バンドメンバーがそろって練習したり、個人練習をしたりします。毎日の練習時間が決められているわけではないので、自主的に行動する力が自然と身に付きます。ロックや、ポップスなど様々なジャンルのバンド曲を練習しています。

主な活動として、５月の愛校バザーや10月の大学祭で演奏を行います。また、月に１回から２回程度ライブを行います。神戸や大阪などのライブハウスをお借りして演奏をします。この時、他大学の軽音楽部や軽音サークルの方たちと合同で行います。ライブハウスでの演奏を、お互いに評価しあったりすることで、これからの自分の課題などを見つけ出すきっかけとなります。そのことによって他大学との交流を深め、多くの人たちと出会うきっかけにもなっています。

そして、夏には合宿を行います。先輩や後輩、同期の部員たちとの距離が一層近くなる時間になります。その合宿で練習した成果を発揮するために、９月に定期演奏会を行います。

軽音楽部は、音楽が好き！楽器が好き！そんな思いを持った人たちが集まって活動している素敵な部活動です！

昨年度の新入生初ライブ

［クラブ］ **小笠原流煎茶道部**

部長

私たち小笠原流煎茶道部は大学で日本文化を本格的に学び、体験できる数少ない部活動です。お稽古では、煎茶道の初歩から上級レベルのお点前を学ぶことができる上、日本人が忘れかけている正しい礼儀作法・マナーを身につけることができます。

年に大きく分けて４回のお茶会があり、そのひとつひとつのお茶会がこれまでの成果を披露する大切な場です。時には部員自らが主催者となってお茶会を開くこともあります。

「手作り茶会」がそのひとつです。お茶会のテーマ、お菓子の内容、お茶の種類、縦軸にお花、お客様に一体何を感じ取ってもらいたいのか、テーマの裏付け、お茶会のすべてを自ら手掛けます。もちろん一からお茶会を作ることはたやすいことではありません。考えれば考えるほど頭を抱え込んでしまうほどです。しかし何か一つのことに打ち込み、時間と手をかけたお茶会が成功し、何よりお客様に満足していただけたときの感動ほどすごいものはありません。このお茶会が重要なのはこれだけに終わりません。一番大切なのは、自分たちの成長、そして何事もひとりではできず、多くの人の助けがあって成り立っているということに気付くということです。お茶会には、見えないところで支えてくださっている人がたくさんいます。お客様もその内の大切な一部です。そのことに気づき、感謝できてこそ本当の成功だと私たちは考えます。そのことを生活に生かせるよう胸に刻み続けます。

2016年春風の宴

# 中高部報告

## ヨーロッパ女子数学オリンピック参加報告

高等学部　２年生

私は４月にルーマニアで行われたヨーロッパ女子数学オリンピック（EGMO）に参加しました。EGMO とはヨーロッパを中心とした国の女子が参加している大会で、A（代数）、G（幾何）、C（組み合わせ）、N（整数）の４分野に分かれた数学の問題を２日間のコンテスト形式で解くというものです。大会の開催地ブシュテニは小さな山あいの町で、自然が美しく、現地の人も優しくて、リラックスした気持ちで参加することができました。コンテスト後には現地の高校生のガイドさんに町を案内してもらってコンサートやお城に行き、とても充実していて楽しかったです。最終日には farewell party があり、さまざまな国の人と関わることができました。特に、日本から持って行った折り紙に興味を持ってくれた人もいて、一緒に鶴を折ったのは良い思い出です。コンテストではなんとか銅メダルをいただくことができましたが、まだまだ実力不足を感じています。今回このような機会に恵まれたことにとても感謝しています。大会の１週間はあっという間でしたが、他では味わえない貴重な体験となりました。最後になりましたが、大会関連でご指導いただいた松川先生、不安とプレッシャーの中にあった私に声をかけて下さった先生方、先輩、友人、色々とお世話になった財団の方々、その他関わって下さった全ての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

## ヨーロッパ女子数学オリンピック報告

高等学部　３年生

４月10日～16日ルーマニアのブシュテニで開催されたヨーロッパ女子数学オリンピック（EGMO）に参加しました。日本は2014年から参加し今大会で３回目の参加となります。ブシュテニは平均標高900メートルの山間部にある小さな町で、広々とした道路と美しい山々が印象的でした。

コンテストは４時間半で３問のテストを２日間行います。１日目、手応えを感じていたものの、その日の夜、採点を待たずしてミスに気が付き、大変落ち込みました。悔いは残りますが、銅メダルをいただくことができました。コンテストの後は、町を散策したり、皆で古城に観光に行ったり、パーティがあったりと楽しむことができました。各国の代表との交流も積極的に行ない、モルドバやスロベニアの代表と仲良くなりました。ロシアの選手たちと「普段どのように数学の勉強をしているか？」など自国の教育制度について話し合い、違いに驚きましたが良い刺激を受けました。初めての国際大会で戸惑うことも多かったですが、良い経験になりました。

数学オリンピックに参加して、充実した日々を送ることができました。初めは問題の難しさや参加者のレベルの高さに圧倒されましたが、楽しんでやってこれたように思います。今後も数学を学ぶことを楽しんでいきたいと思います。

数学オリンピック財団の皆様、松川先生、支えてくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 模擬国連世界大会への派遣

高等学部　3年生

2015年11月東京で行われた全日本高校模擬国連大会を経て、2016年5月にNYで開催された高校模擬国連国際大会に日本代表団の一員として参加してきました。模擬国連とは、環境問題・核軍縮・食糧問題・移民問題などの、現実社会で起こっている問題に対してどのように国連、そして国際社会が対処していくのかについて、一政府の責任ある立場の人間として考えぬき、その国の国益を達成しつつ問題を解決することを目指して会議に臨むという、一種の外交ゲームです。模擬国連への参加を通して、私は高校生という立場ながら、世の中で起きている問題に対するアプローチ方法、および、外交の世界における行動のあるべき姿を学び実践することができました。2014年12月の練習会議に始まり、1年半。長いようで短かったですが、私は模擬国連に関わり充実した時間を過ごしてきました。そして、そこには多くの人の支えがありました。全日本大会および私たちの全米派遣メンバーへの選出を可能にしてくださったすべての方々。そして、両大会に臨む前に頑張ってきてねと励ましてくれた同級生の皆さん。そして家族。私の模擬国連生活に関わってくださった全ての方々との出会いに感謝して報告を終わらせていただきます。

## Yes, we can!

高等学部　2年生

私は、昨年11月に東京で行われた第9回全日本高校模擬国連大会で優秀賞を獲得し、先日、米国NYにて開催される高校模擬国連の世界大会に日本代表団の一人として派遣された。国際大会では、周囲の英語力の高さに圧倒されながらもベストを尽くすことができた。一緒に大会に出場したパートナー、応援してくださったたくさんの先生方、特にありがとうございました。

ところで、私は、模擬国連に限らず、いろいろな活動に参加し、個人がそれを還元していくことで、神戸女学院の伝統はより洗練されたものになると確信している。ここで、模擬国連・日本語ディベートなどの課外活動を行ってきた者として、リアルな話をしたい。神戸女学院でこのような活動を行う際、たくさんの制約が存在することは事実だ。苦しんでいる人もいるだろう。しかし、この状況を変えるためには、新たな挑戦を続けるしかない。人の歩かない所に、道はできない。今何か挑戦してみたいことを見つけている人は、諦めないで先生に相談してみてほしい。障害は一つずつ取り除くしかない。先生方による生徒の気持ちを考えた温かいサポートがあって、学校の主人公である生徒が輝くと思う。

## 中高部図書室報告

Ⅰ．2015年度の主なできごと

（1）蔵書点検　2015年７月14日～24日

Ⅱ．ａ 2015年度増加図書冊数（資産化図書）

| | 購入 | 寄贈 | 移管 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 和漢書 | 11 | 0 | 0 | 11 |
| 洋書 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計（冊） | 11 | 0 | 0 | 11 |

ｂ 1972年以降受け入れ図書の蔵書冊数の増減（資産化図書）

| | |
|---|---|
| 2015年度　増加数 | 11 |
| 2015年度　除籍数 | 331 |
| 蔵書数（冊） | 8,798 |

ｃ 消耗図書費の蔵書冊数の増減

| | |
|---|---|
| 2015年度　増加数 | 2,574 |
| 2015年度　除籍数 | 3,465 |
| 蔵書数（冊） | 58,679 |

Ⅲ．2015年度貸し出し冊数

| | |
|---|---|
| Ｊ１ | 5,742 |
| Ｊ２ | 3,748 |
| Ｊ３ | 1,292 |
| Ｓ１ | 2,333 |
| Ｓ２ | 414 |
| Ｓ３ | 167 |
| 教職員 | 500 |
| 大学生・大学院生 | 11 |
| その他 | 2 |
| 合計（冊） | 14,209 |

貸し出し日数　214日　　１日平均　66.4冊

（中高部図書室司書教諭）

## 2016年度中学部入学試験結果報告

日程：2016年１月16日（土）・18日（月）

| 募集人数 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|---|---|---|---|---|
| 135 | 255 | 253 | 162 | 145 |

（中高部事務室）

2015年度学校評価について

個人情報保護のため、
40ページ目から41ページ目は削除しています。

中高部 P.T.A. 報告

個人情報保護のため、
42ページ目から43ページ目は削除しています。

## 2016年度中高部受け入れ留学生

本年度は、S1に3名、S2に1名、計4名の留学生を受け入れています。

S1の3名は、オーストラリアの姉妹校 Methodist Ladies College（MLC）の生徒です。A組に1名、B組に1名、C組に1名が在籍して勉強しています。4月から7月まで、それぞれ中高部の生徒の3家庭、計9家庭にお世話になっています。

S2の1名は、フランスから来た17歳の AFS 生です。4月から来年の2月まで、C組に在籍し、修学旅行にも一緒に参加します。柔道が得意で、来日してからも地域の教室に通っているそうです。学外の方にホストファミリーをしていただいています。

4名は、所属するクラスで一緒に授業を受けたり、他の学年の選択の実習授業に参加したり、週に6時間、講師の先生の日本語の授業を受けたりしています。先日は、礼拝時に、自己紹介とそれぞれの母国の学校や家族、友達についてをプレゼンテーションしてくれました。明るく、元気な4名で、何事にも一生懸命に取り組んでいます。

4名との出会いを通して、異文化に出会い、お互いに良い刺激を与え合ってくれています。

（中高部英語科教諭　留学生係）

オーストラリア　MLC 生

はじめまして。十五才で、高校一年生です。オーストラリアのパースから来ました。四月から七月まで日本にいます。趣味はギターをひいたり、本を読んだりすることです。そして、週末に兄と川でセーリングもします。和食が好きです。一番好きな食べ物はたこやきです。このきかいをあたえていただいて、ありがとうございます。これから日本語をいっしょうけんめい勉強したいと思います。宜しくお願い致します。

オーストラリア　MLC 生

みなさん、こんにちは。オーストラリアのパースから来た留学生です。三か月かん神戸女学院のS1でべんきょうします。家族は、父と母と兄と私の四人です。音楽や本やえいがや旅行などにきょうみがあります。日本語が上手になりたいです。そして、みんなとともだちになりたいです！よろしくおねがいします。

オーストラリア　MLC 生

はじめまして。パースの MLC で日本語を勉強しています。本をよむことや音楽を聴くこと、そして、びじゅつやりょこうも好きです。私の家ぞくは父と母と姉と弟と私の五人です。そして、犬が五ひきいます。関西に来たのははじめてですが、楽しいです。ここで友だちができるのを楽しみにしています！よろしくおねがいします。

フランス　AFS 生

おはようございます。私はフランス人です。17さいです。日本語が好きですから、日本に来ました。そして、私は柔道が大好きですから、日本に来てからも柔道をしています。めっちゃ楽しいですよ。よろしくお願いします。

## Ｊ１デイキャンプ

４月１日(金)、２日(土)の２日間、中高部では新Ｊ１を迎える行事「Ｊ１デイキャンプ（以下Ｊキャン)」を行いました。新Ｊ１生たちは、長距離の通学や毎日の礼拝、自主性を求められて生徒同士で協力してつくりあげていく学校生活など、これまで過ごした小学校での生活とは全く異なった環境に入ってきます。そんな新生活にソフトランディングができるように、新Ｊ２から新Ｓ３までの生徒たちが、１年間かけてこのＪキャンのために議論し、準備をしてきました。

１日目は予め分けられた７～８人の班（先輩がつきます）での活動が主でした。グラウンドで昼食を食べた後、学内で知っておかなければならない場所をめぐるオリエンテーリングをしました。帰宅も班ごとで、班の先輩に案内されて、決められた通学路を確認しながら門戸厄神駅に向かいました。２日目はクラスでの活動が主でした。礼拝・メディテーションの後、ジグソーパズル作りをしました。完成したパズルには、クラス毎に相談して図案を考え、学年カラーの青を使って絵を描きました。その後、コミュニケーションアクティビティーやレクリエーションを行いました。この日も帰宅は班ごとで、先輩に案内されて、前日とは別の通学路を確認しました。

このＪキャンで新Ｊ１生たちが新しい人間関係をつくり、今後たくましく６年間を過ごしてくれるための端緒をつかんでくれたのではないかと思います。

（ディレクター）

## 春の修養会報告　大阪水上隣保館訪問

### ４月23日(土)　交流と昼ごはん大会

例年のごとく、またしても絶好の好天に恵まれた１日となった。子羊保育園の子どもたち17名、先生方６名、本校からは、Ｊ２（14名)、Ｊ３（22名)、Ｓ１（12名)、Ｓ２（５名)、Ｓ３（４名）の計57名、引率教員３名の総勢83名の参加となり、大いに盛り上がった。９時に大阪駅を出発し、10時から宗教部生徒の司会で礼拝を守りその後、当日の諸注意と詳細な打ち合わせを行っていると、なんと延原正海先生が訪ねて来られた。延原先生は1990年代初頭から2000年代半ばまで、この行事において本校生の受け入れ、御世話をしてくださった方である。先生の長年の実践を基盤にした温かいお話をお聞きする事ができ、本校生も聴き入っていた。11時に保育園へ子どもたちと出会いに行く。本校生が持参した、心のこもった手作り弁当、そして教員が用意した牛肉、キムチ３種で恒例の昼ごはん大会。本校生は、２～３人グループに分かれて、皆、精一杯、心を使って子どもたちと向き合っていた。今回はここ数年に比して参加者が少なかったせいか、終始落ち着いた穏やかな雰囲気の中、子どもたちは本校生に思いっきり甘える事ができた、中身の濃い１日となった。保育園へ子どもたちを送り、１日の総括を行った後、皆、精一杯頑張った心地よい疲れをおぼえつつ、爽やかな気持ちで帰路に着いた。本校生の頑張りが嬉しく、教員にとっても、充実した１日であった。

（中高部教諭）

46ページ目から48ページ目は削除しています。

## 春の子ども会報告

去る４月29日に春の子ども会が開催されました。春の子ども会は近隣の児童擁護施設で暮らす子どもたちと神戸女学院・関西学院の高校生とが一日を過ごす、伝統ある行事なのですが、今回は４施設の子どもたちを招待しての開催となりました。今年度も会場は神戸女学院。女学院では、高等学部自治会の役員が中心になって、関西学院の生徒とともに入念な打ち合わせと準備を重ねてこの日を迎えました。

当日はお天気に恵まれ、朝９時過ぎから送り迎え係の高校生に連れられて各施設から順次子どもたちが到着、10時過ぎに、開会式が始まりました。午前中は中高部１号館にて各種ゲームに興じ、お昼にはグラウンドで本校食堂の方が作ってくださったお弁当に舌鼓を打ちました。その後はそのままグラウンドで、高校生と子どもたちとが一体となり、しっぽおにや魚つり、ボールキャッチ、キッキングスナイパーなどを楽しみました。そして閉会式を経て午後４時前には子どもたち全員が、高校生に付き添われて帰路につきました。

春の子ども会は、子どもたちのみならず、本校の生徒たちにとっても最も楽しみな行事の一つです。満面の笑顔が絶えない、実に素敵な一日となったことに感謝して「報告」とさせていただきます。

なお、当日の引率教員は７名でした。

（高等学部自治会顧問）

## 体育祭報告

今年度は、去る６月10日に、中高部の体育祭が開催されました。当初は７日の予定で、この日の朝、開会式、そして各組ごとの行進を始めたものの、雨脚が強まり、やむなく中断することになってしまいました。雨に濡れた生徒たちはもとより、来校してくださった保護者の方々にも多大なご迷惑をおかけすることとなりました。お詫びのしようもありません。本当に申し訳ありませんでした。

それにもかかわらず10日に再開した折には、皆さまに温かく見守っていただき、お陰様にて何とか今年度の体育祭を終えられましたことに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、体育祭は、中高部の生徒たちが最も楽しみにしている行事だと言っても過言ではありません。縦割りの各組ごと、各競技ごとの日々の練習、そして企画実行委員や体育部による入念な準備を見ていると、人の持てる力の偉大さと限りない可能性を思います。そして、生徒たちの、ひとつのことに賭ける情熱や互いをいたわり合う思いやりの深さには驚嘆させられます。満足のいく成果を収めたときの感動はもちろん素晴らしいものですが、思うような成績をあげられなかったとしても、この体育祭という行事を通して学ぶことは、生徒たちにとっても教員にとっても大きなものであることを確信しています。

今後もこの体育祭が、関係する皆にとってかけがえのないひとときとなることをお祈りしております。

（2016年度体育祭企画実行委員会顧問）

＜課外活動紹介＞

［クラブ］ **Ｊテニス部**

中学部　３年生

**Ｊテニス部の夢**

現在部員44名のＪテニス部では、年２回部員同士で競い順位を決める部内試合が行われます。部員はお互いに切磋琢磨し、緊張感を持てる環境の中、日々練習に励んでいます。

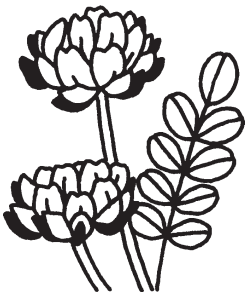
練習では「やらされる」より「やる」精神を大切に、技術は先輩から後輩に教え受け継がれます。テニスというスポーツは個人戦も団体戦もあり、自立性と協調性をやしなえます。団体戦では県大会、近畿大会に出場させていただきました。

部員全員、尊敬する顧問の先生方に見守られながら日々成長しています。私たちの夢は全国大会に出場することです。応援よろしくお願いします！

［クラブ］ **ＪESS部**

アメリカ人の先生にもお手伝いいただき、年に数回ある舞台公演のために発声、発音、歌唱などの練習をしています。舞台では英語劇や英語ミュージカルを上演します。ミュージカルの際には生徒が振り付けを担当したダンスも披露します。文化系とはいえ、大道具制作やダンスの練習などで体も使います。メインとなる公演は秋の文化祭です。皆様に楽しんでいただけるよう、台本や演出、衣装や照明なども生徒が担当します。機会がありましたら是非、公演を見にいらしてください。

（JESS 顧問）



［クラブ］ **Ｓ絵画部**

高等学部　２年生

Ｓ絵画部の１年の最初の大仕事は愛校バザーです。手作りのポストカードやストラップを販売します。その次にやってくるのは一番の楽しみ、夏合宿です。旅先の風景を油彩で描くのが恒例です。文化祭ではその風景画と、１学期から着々と作り上げてきた共同制作を展示します。文化祭の後は次年度の愛校バザーに向けて商品を作るほか、私学展に出品したり、各々が好きな課題に取り組む時間も持つことができます。

部員は僅か６人ですが、これからも互いに切磋琢磨していきたいと思います。

［クラブ］ **Ｓコンピュータ部**

高等学部　３年生

**復活！Ｓコンピュータ部**

私たちＳコンピュータ部は、週に１回、金曜日に活動しています。一時はＳ２もほとんどおらず、Ｓ１は１人も居ないという状況でした。「このままでは廃部だ」と呼びかけたところ、Ｓ１：４名、Ｓ２：６名となり、廃部の危機を脱しました。今、部活では、文化祭で作品を発表できるように、プログラミングを学んでいます。プログラミング初心者の部員も多く、大変なことも多いですが部員が少ないなりに頑張っていきたいと思います。

## 〈学 院 日 誌〉

| | |
|---|---|
| 4月1日(金) | 新任教職員就任式・オリエンテーション<br>臨時評議員会<br>新任教職員創立者墓前礼拝 |
| 4月4日(月) | 大学・大学院入学式<br>学生寮入寮式 |
| 4月5日(火) | 中高部教員会議 |
| 4月6日(水) | 中学部入学式 |
| 4月7日(木) | 高等学部入学式<br>中学部・高等学部始業式 |
| 4月20日(水) | 中高部教員会議 |
| 4月22日(金) | 教授会 |
| 4月27日(水) | 理事会 |
| 4月29日(金) | 教授会研修会 |
| 5月11日(水) | 中高部教員会議 |
| 5月19日(木) | 創立者記念日墓前礼拝 |
| 5月20日(金) | 教授会 |
| 5月25日(水) | 理事会<br>評議員会<br>理事会及び評議員会メンバーとの懇談会 |
| 5月28日(土) | 愛校バザー |
| 6月1日(水) | 中高部教員会議 |
| 6月10日(金) | 中高部体育祭 |
| 6月15日(水) | 中高部教員会議 |
| 6月17日(金) | 教授会 |
| 6月19日(日) | オープンキャンパス |
| 6月22日(水) | 理事会<br>神戸女学院教育振興会役員会 |
| 6月29日(水) | 中高部教員会議 |
| 7月11日(月) | 中高部教員会議 |
| 7月15日(金) | 教授会 |
| 7月22日(金) | 学院リトリート |
| 7月27日(水) | 理事会 |

## 目 次


「愛神」について……1
KCC だより……3
愛校バザー報告……4
新任のことば……4
人事・学内人事・慶弔・栄誉……10
神戸女学院教育振興会寄付金・その他の寄付・現物寄付……11
神戸女学院2015年度決算報告及び2016年度事業計画……12
史料室の窓・年間標語……17
キャンパスお気に入りの場所……18
大学報告
大学基準協会による認証評価結果……19
地域創りリーダー養成プログラムの取り組み……19
The Japanese Migration to Hawaii: Our Experiences……20
サイエンスキャンプ……20
Meal for Refugees @ Kobe College……21
四大陸フィギュアスケート選手権の国際ボランティアで得たもの……21
学内にコンビニエンスストアが開店……22
熊本地震について……22
重文パンフレット Web 版完成……22
シェイクスピア・ガーデン HP 完成……22
家庭会大学部会総会報告……23
大学春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）……25
2015年度 大学図書館報告……25
新刊一覧……25
2016年度 大学・大学院入学試験結果概要……26
2016年度 在籍学生数……26
2015年度 就職決定状況……27
2016年度 キャリアサポートプログラム（予定）……29
受入れ留学生報告……30
中期英語留学報告……31
中期海外研修報告……32
語学研修報告……33
私の研究……34
ゼミ紹介……35
課外活動紹介……36
中高部報告
ヨーロッパ女子数学オリンピック参加報告……37
ヨーロッパ女子数学オリンピック報告……37
模擬国連世界大会への派遣……38
Yes, we can!……38
中高部図書室報告……39
2016年度中学部入学試験結果報告……39
2015年度学校評価について……40
中高部 P.T.A.報告……42
2016年度中高部受け入れ留学生……44
Ｊ１デイキャンプ……45
春の修養会報告　大阪水上隣保館訪問……45
Ｊ１春の遠足報告……46
Ｊ２春の遠足……46
Ｊ３春の遠足……47
Ｓ１春の遠足……47
Ｓ２春の遠足……48
Ｓ３春の遠足……48
春の子ども会報告……49
体育祭報告……49
課外活動紹介……50
学院日誌……52